

校内研究等の実施状況に関する調査報告

— 一層やりがいのある校内研究のために —

平成24年3月

大分県教育センター

は し が き

学校教育の成否は教員の資質能力に負うところが大きいことから、教員養成・採用段階から、採用後の能力開発、研修体系や人事異動等教職員のライフステージ全般を通じて総合的、体系的に人材の育成を図ることが重要となっています。

とりわけ、校内研究等は教科指導や生徒指導等の職務遂行を通して、教員個々の指導力はもとより、同僚性や協働体制等の組織的な教育力の向上に有効な研修です。このことは、全国学力・学習状況調査において比較的良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究報告書（早稲田大学「文部科学省委託」2011.3）や教員の質の向上に関する調査研究報告書（国立教育政策研究所 2011.3）により、「校内研究や授業研究などに取り組んでいる学校ほど、授業の水準や児童生徒の学力などが高い」という事実からも証明されています。

本研究では、県内全ての公立小・中学校が校内研究の必要性を認め多くの時間を費やしている反面、研究内容やその成果が日常の教育実践に十分に生かされていないという実態を踏まえ、校内研究等の実施状況に関する調査結果の考察や現地調査などから、校内研究の問題点とその改善方策を明らかにすることをねらいとしました。

研究結果として明らかになったことは、校内研究は普遍的で一般的な理論を明らかにすることを目的とするものではないこと、そして、研究テーマはそれぞれの学校教育の改善・改革を図るための緊急性や具体性を備えた内容であることです。

特に、授業研究は再現性を前提に、「～すれば、～になる」という仮説の検証を追い求めることによって授業者の思いとかけ離れた授業展開となり、その結果、授業者本人の指導観を収束させがちです。授業研究の目的は、いろいろなやり方を試みて、ねらいとすることが達成できるものかどうかを議論することによって、教員間の授業観を深め、理解を広げて行くことに価値があると考えます。

本報告が、県内の各学校において「一層やりがいのある校内研究」を開発するうえで役立てば幸いです。

終わりに、本研究を進めるに当たり、実施状況調査及び現地調査にご協力いただきました公立小・中学校研究主任並びに関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成24年3月

研究代表者 三浦 徹夫
(大分県教育センター所長)

目 次

はしがき

第1章	調査の概要	1
1	調査目的	2
2	調査期間	2
3	調査内容と方法	2
4	調査対象及び校数	2
5	調査結果の検討方法	2
第2章	調査結果	3
第3章	考察	11
1	なぜ校内研究は必要だととらえているのか？	12
	大分県の小・中学校での一般的な校内研究の展開例	13
2	校内研究の手法はマンネリ化していないか？	14
3	校内研究において多くの時間を要する合意形成とは？	16
第4章	提言	17
	一層やりがいのある校内研究のポイントとは	18
提言1	授業研究を問い直してみる	19
	実践的指導力の向上をめざす授業研究へのアプローチ	20
	実践的指導力の向上をめざす授業の構想	21
提言2	研究テーマを問い直してみる	22
	学校教育の改善・改革をめざす校内研究へのアプローチ	23
第5章	資料	25
1	質問用紙	26
2	回答用紙	30
3	研究仮説及び自由記述内容	31

第1章 調査の概要

1 調査目的

本調査は、県内の公立小・中学校における校内研究の実態を把握し、校内研究の現状と課題を明らかにするとともに、各学校における校内研究の推進と充実に資することを目的とする。

2 調査期間

平成23年8月3日（水） ～ 平成23年9月2日（金）

3 調査内容と方法

(1) 調査内容

第5章 資料 質問用紙 参照

(2) 調査方法

教育事務所、市町村教育委員会経由で各学校長あてに調査を依頼する。
回答は各校の研究主任が行う。

4 調査対象及び校数

県内全公立小・中学校（小学校 301校 中学校 133校）

※公立小学校、中学校とも回収率100%

5 調査結果の検討方法

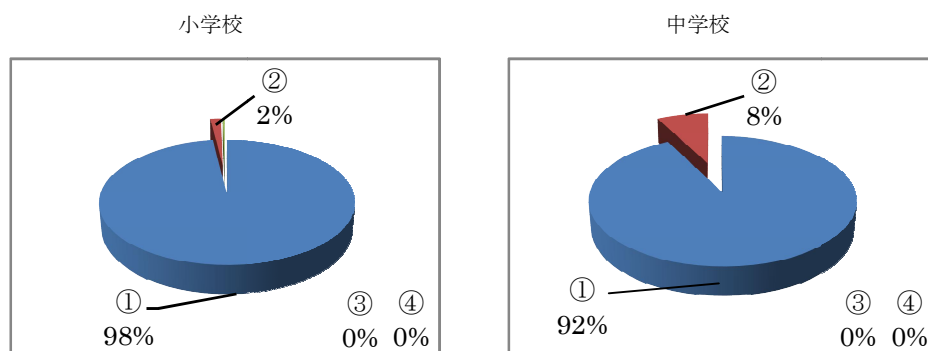
「校内研究等の実施状況に関する調査」（国立教育政策研究所2010.9）等の先行研究を参考に、大学教授の指導・助言のもと調査結果を検討する。

第2章 調査結果

1 校内研究の必要性について

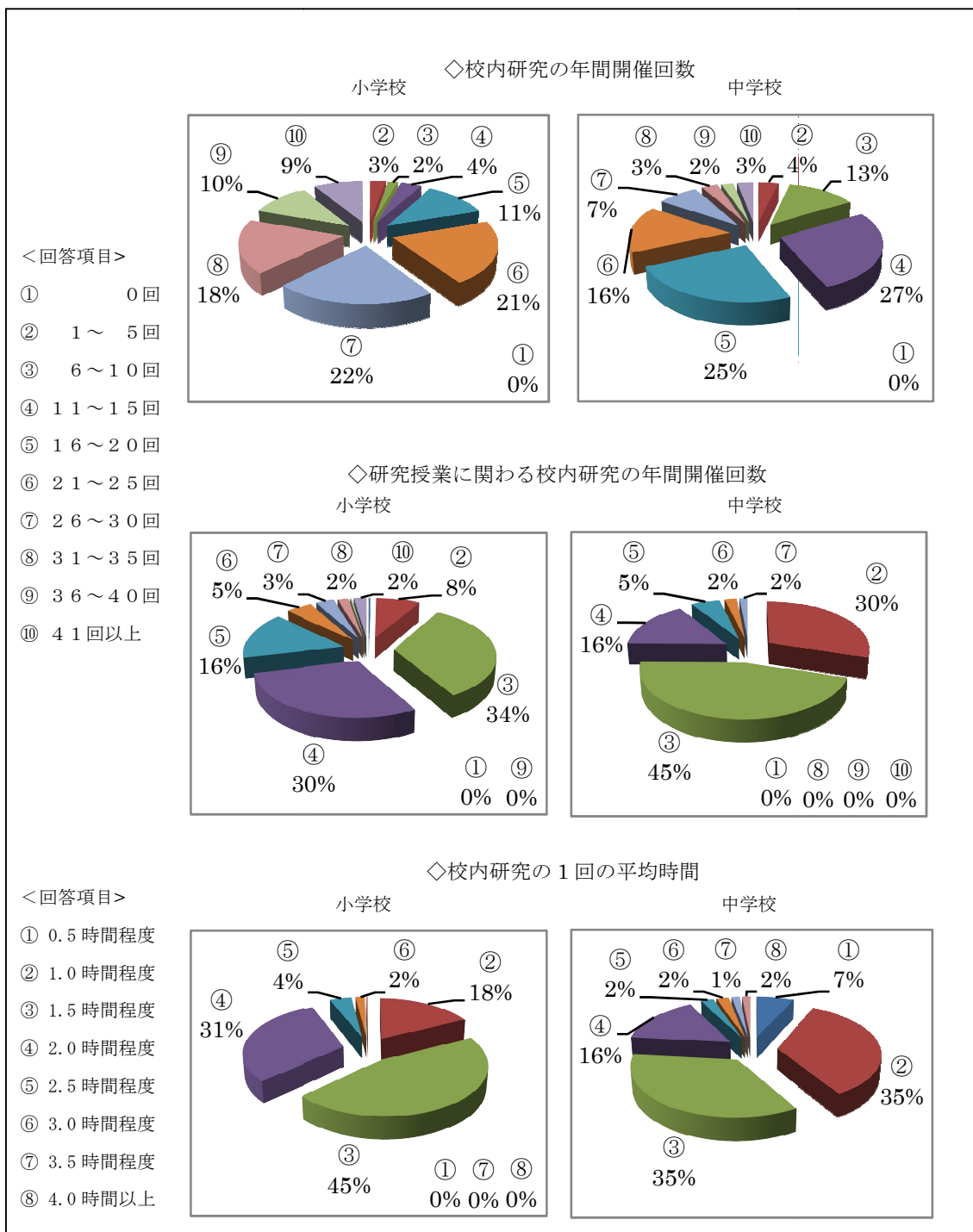
<回答項目>

- ① 校内研究は必要である
- ② 校内研究はどちらかといえば必要である
- ③ 校内研究はどちらかといえば必要でない
- ④ 校内研究は必要でない



校内研究は「必要である」と答えたのは、小学校 98%、中学校 92%、「どちらかといえば必要である」と答えたのは、小学校 2%、中学校 8%であり、小学校、中学校とも、全ての学校が校内研究は必要であるととらえている。

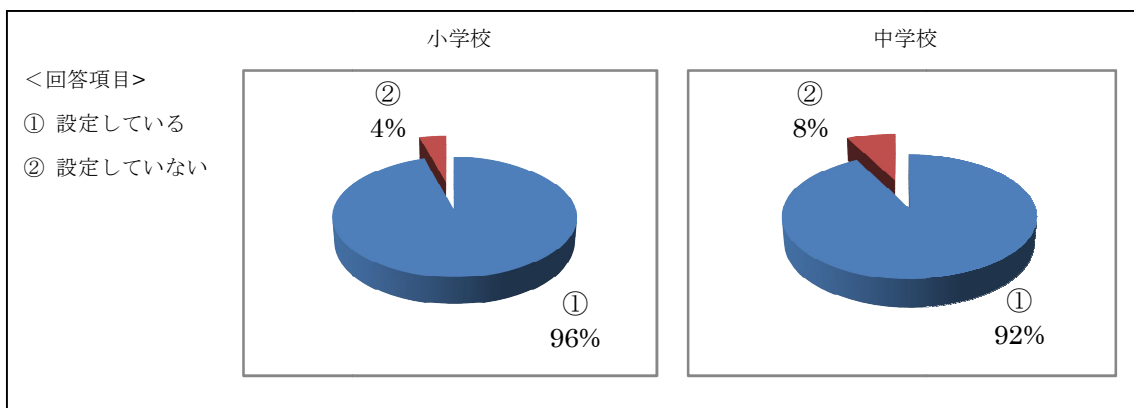
2 校内研究の年間開催回数及び1回の平均時間について



「校内研究の年間開催回数」は、小学校では16回以上が91%、中学校では11回以上が83%を占める。校内研究の中で「研究授業に関わる校内研究の年間開催回数」は、小学校では11回以上が58%、中学校では6回以上が70%を占める。

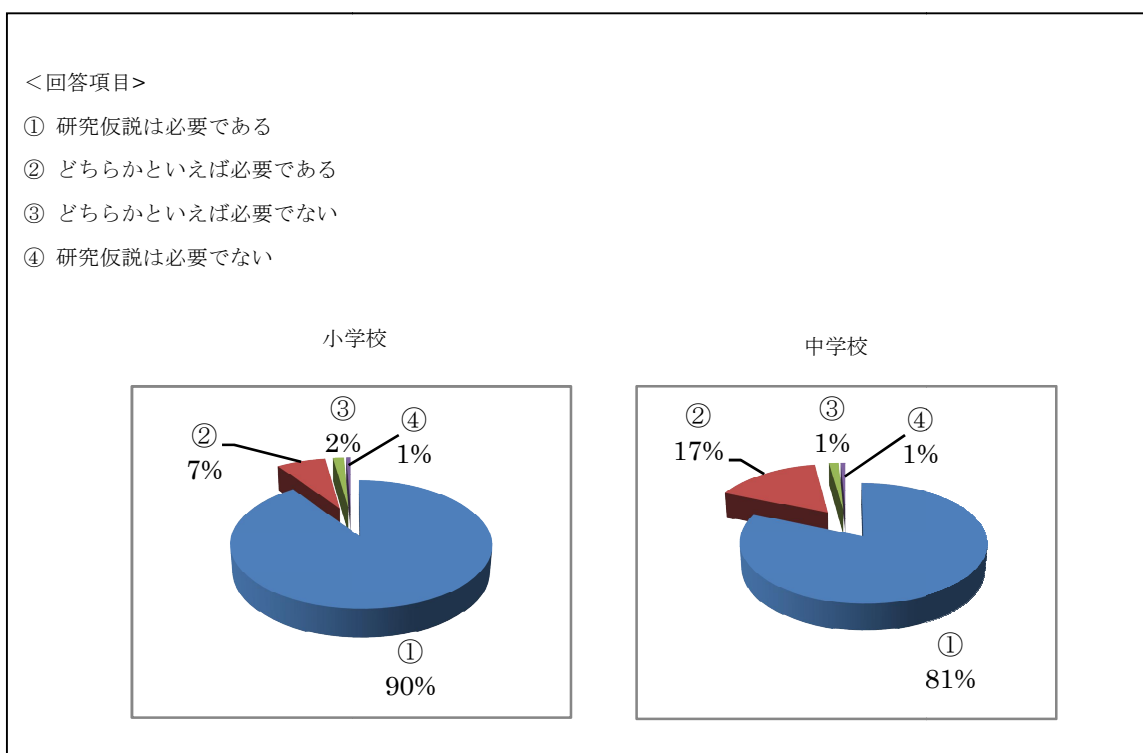
また、「校内研究の1回の平均時間」は、小学校では1.5～2.0時間程度が76%、中学校では1.0～1.5時間程度が70%を占める。

3 研究仮説について



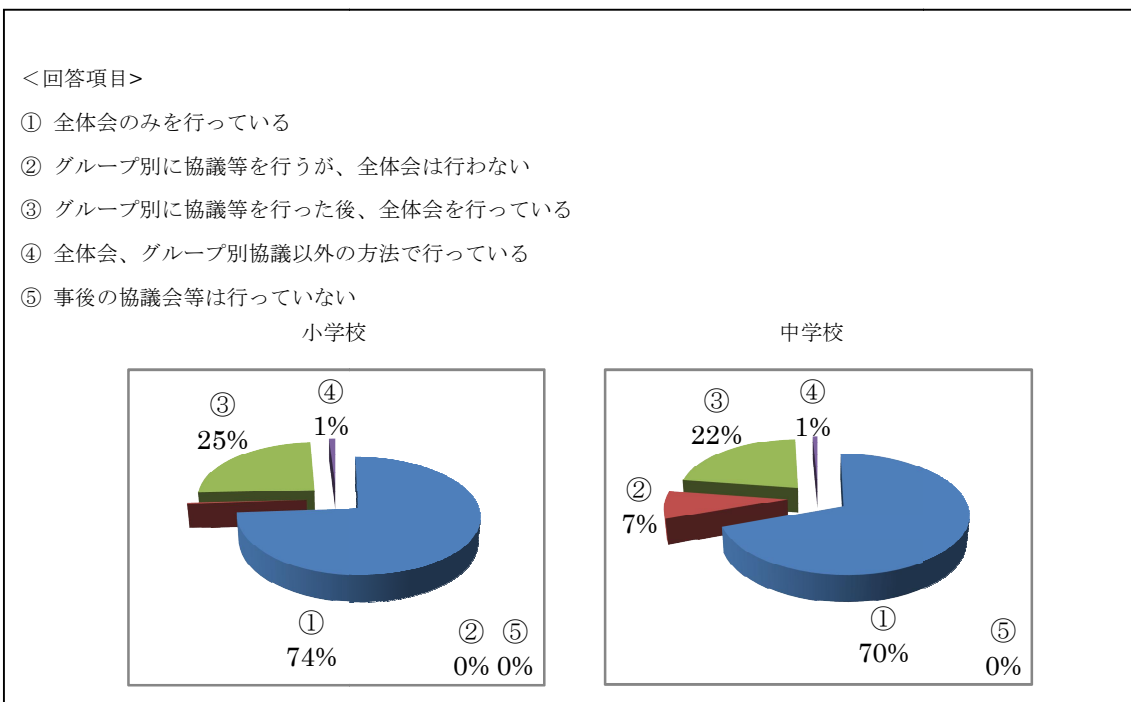
研究仮説を「設定している」と答えたのは、小学校 96%、中学校 92%であり、小学校、中学校とも、ほとんどの学校が研究仮説を設定し、校内研究を実施している。

4 研究仮説の必要性について



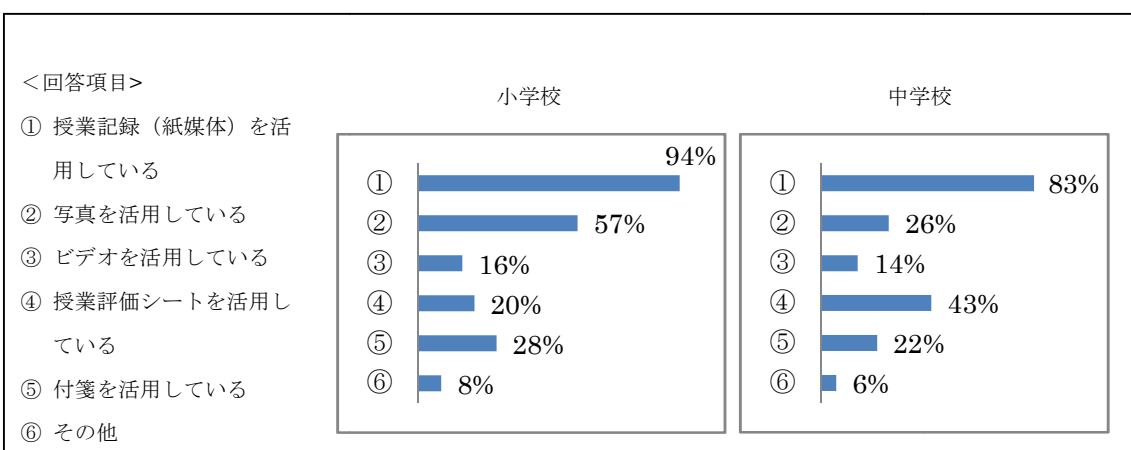
研究仮説は「必要である」と答えたのは、小学校 90%、中学校 81%、「どちらかといえば必要である」と答えたのは、小学校 7%、中学校 17%であり、小学校、中学校とも、ほとんどの学校が研究仮説は必要であると考えている。

5 研究授業後における協議会等の実施体制について



小学校では、「全体会のみ」74%、「グループ別協議の後、全体会」25%、中学校では、「全体会のみ」70%、「グループ別協議の後、全体会」22%という回答が多かった。小学校、中学校とも70%以上が「全体会のみ」行っている。

6 研究授業後における協議会等の実施方法について（複数回答）

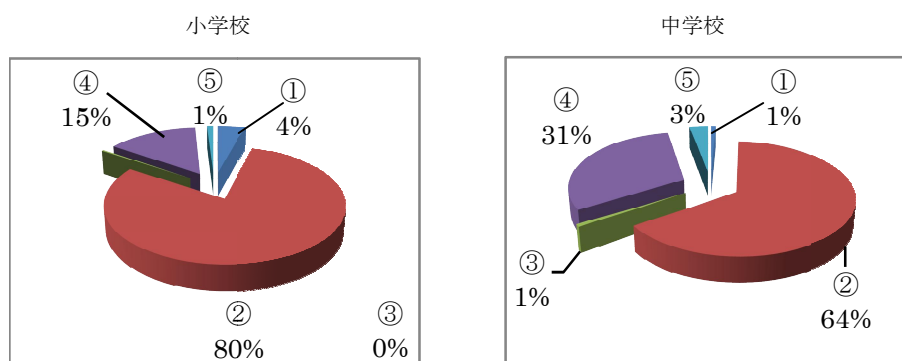


小学校では、「授業記録（紙媒体）を活用している」94%、「写真を活用している」57%、「付箋を活用している」28%、中学校では、「授業記録（紙媒体）を活用している」83%、「授業評価シートを活用している」43%、「写真を活用している」26%という回答が多かった。小学校、中学校とも、「授業記録（紙媒体）」の活用が中心であるが、「写真」「授業評価シート」「付箋」等の多様な方法を活用している。

7 研究のまとめの作成について

<回答項目>

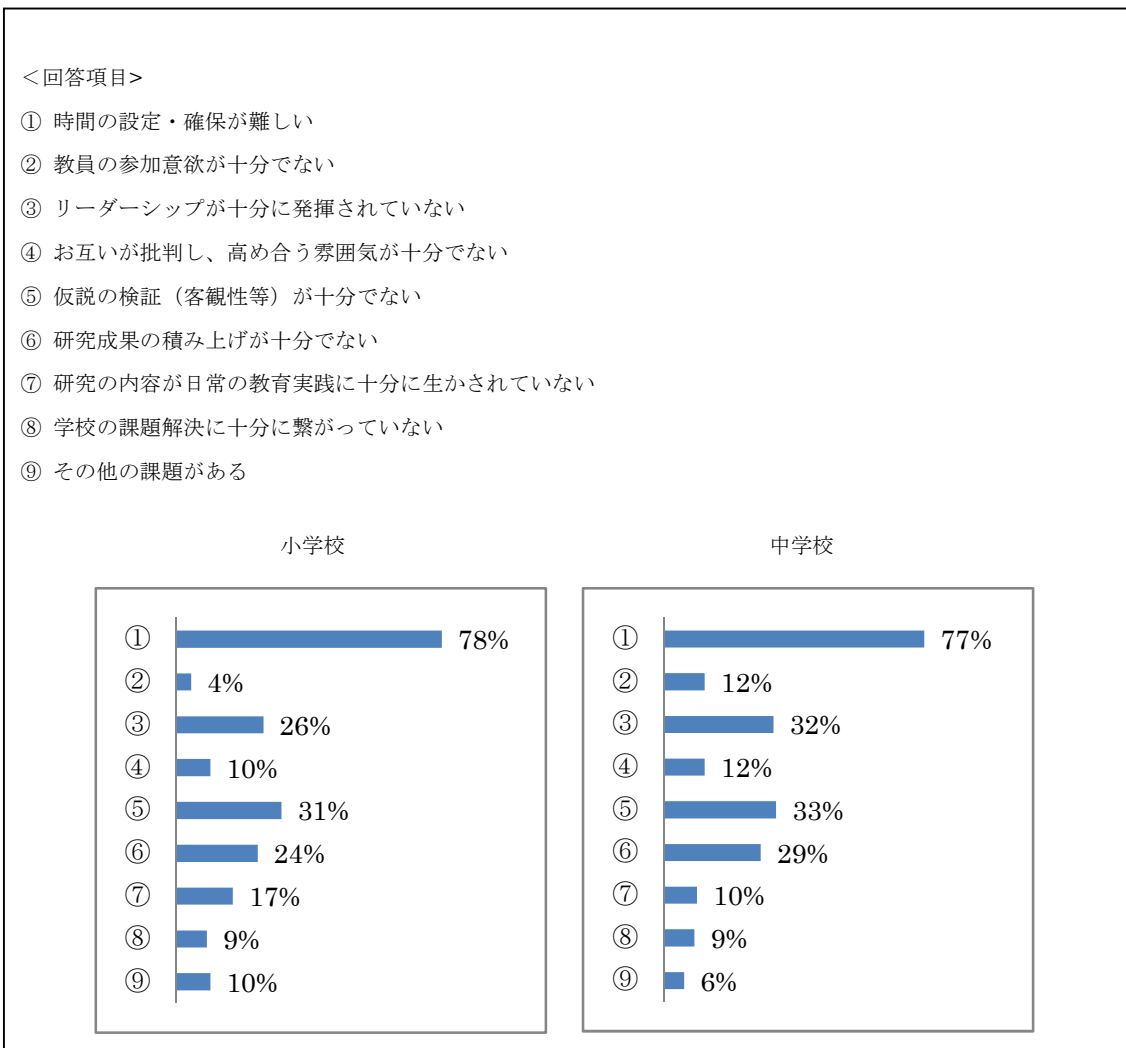
- ① 研究紀要（冊子）としてまとめており、ホームページ等で公開している
- ② 研究紀要（冊子）としてまとめているが、ホームページ等では公開していない
- ③ 研究紀要（冊子）は作成せず、概要（数ページ）にまとめており、ホームページ等で公開している
- ④ 研究紀要（冊子）は作成せず、概要（数ページ）にまとめているが、ホームページ等では公開していない
- ⑤ その他



「研究紀要（冊子）を作成する」と答えたのは、小学校 84%、中学校 65%、「研究紀要（冊子）は作成せず、概要（数ページ）としてまとめている」と答えたのは、小学校 15%、中学校 32%である。多くの学校で研究紀要（冊子）を作成している状況があるが、特に中学校では研究紀要（冊子）は作成せず、概要（数ページ）としてまとめている学校もかなりある。

また、「ホームページ等で公開している」と答えたのは、小学校 4%、中学校 2%にとどまっている。

8 本年度の校内研究の課題について（複数回答）



小学校、中学校とも課題として回答した割合の多い項目は同じであり、「時間の設定・確保が難しい」（小学校 78%、中学校 77%）、「仮説の検証（客観性等）が十分でない」（小学校 31%、中学校 33%）、「リーダーシップが十分に発揮されていない」（小学校 26%、中学校 32%）、「研究成果の積み上げが十分でない」（小学校 24%、中学校 29%）であった。

第3章 考察

1 なぜ校内研究は必要だととらえているのか？

校内研究の必要性について

- ・「必要である」：小学校98%、中学校92%
- ・「どちらかといえば必要である」：小学校2%、中学校8%

小・中学校とも、全ての学校が校内研究は必要であると回答している。この点で、校内研修の特質・意義について、①日常の教育実践から現実に即した研修課題が設定され、それを直接に究明することができ（日常性、直接性）、②組織体としての研修であり、相互理解と協力関係を促進するものであり（協働性）、③教育実践を通じて、あるいはそれと並行して行われるという意味で、成果が直接子どもに還元できる（具体性、実践性、即効性）、かつ、④研修をめぐる時間的・空間的条件が比較的整いやすい（簡易性）等があげられている。（岸本幸次郎・久高喜行編著(1986)「教師の力量形成」ぎょうせい）

次ページは、大分県の小・中学校での一般的な校内研究の展開例である。校内研究は、課題の把握、課題解決に向けた手立ての構想、研究仮説の設定、検証授業計画の策定、検証授業の構想、検証授業の実施、検証授業の事後研究会の実施、1年間のまとめという形で進められている。

課題の把握では、①研究主任を中心に研究推進委員会等で、学校教育目標からつなげて考える、②自校の子どもの課題調査を教師のアンケート等によって行う、③研究推進委員会や校内研究会等で合意形成を図るという手順で行われるのが一般的である。また、課題解決に向けた手立ての構想、研究仮説の設定、検証授業計画の策定においても、研究主任が提案したものを研究推進委員会や校内研究会において合意形成を図ることにより、決定することになっている。

このように、校内研究はそれぞれの段階において、全教職員で合意形成を重ねながら、共通の考えのもとに進めていくことにより、協働性を高め、同僚性をはぐくむと考えられている。その結果、校内研究は教職員間のコミュニケーションを通して、お互いの指導力を高め合うことにより、学校の教育力を向上させるものとして必要だととらえているのではないかと。

大分県の小・中学校での一般的な校内研究の展開例

1 課題の把握

- (1) 研究主任を中心に研究推進委員会等で学校教育目標からつなげて考える。
- (2) 自校の子どもの課題調査を教職員へのアンケート等によって行う。
- (3) 研究推進委員会や校内研究会等で合意形成を図る。



2 課題解決に向けた手立ての構想

- (1) 研究主任が中心となって先進校の調査を行う。
- (2) 研究主任が中心となって先行研究の調査（書籍、web上の情報等を中心）を行う。
- (3) 研究推進委員会や校内研究会等で合意形成を図る。

3 研究仮説・研究主題の設定

- (1) 研究推進委員会や校内研究会等で合意形成を図る。

4 検証授業計画の策定

- (1) 研究主任を中心に年間の実施数、検証学年、検証授業者の調整を行う。
- (2) 研究推進委員会や校内研究会等で合意形成を図る。

5 検証授業の構想

- (1) 検証授業者が研究仮説にある手立ての具体化（教材開発等）を行う。
- (2) 検証授業者が学習指導案を作成する。
- (3) 学年部会等で学習指導案の検討を行う。
- (4) 校内研究会で学習指導案の検討を行う。
- (5) 検証授業者を中心に学習指導案（教材も）を修正する。
- (6) 学年部会や校内研究会で学習指導案、検証方法の合意形成を図る。
- (7) 検証授業者以外が、必要に応じてプレ検証授業を行い学習指導案を修正する。

6 検証授業の実施

- (1) 研究主任が検証授業の視点等をまとめ、参観者に配布する。
- (2) 授業記録等をとる。



7 検証授業の事後研究会の実施

- (1) 授業者の反省→質問→意見→まとめ の流れで行う。

8 1年間のまとめ

- (1) 各検証授業者が検証授業の成果と課題をまとめる。
- (2) 研究主任が、研究の成果と課題のまとめを作成するために教職員へのアンケート等を行う。
- (3) 校内研究会等で成果と課題を検討し、合意形成を図る。
- (4) 研究紀要（学習指導案、研究の成果と課題等）を作成する。

2 校内研究の手法はマンネリ化していないか？

研究仮説の設定状況について

- ・「研究仮説を設定している」：小学校96%、中学校92%

研究仮説の必要性について

- ・「研究仮説は必要である」：小学校90%、中学校81%
- ・「どちらかといえば必要である」：小学校7%、中学校17%

本年度の校内研究の課題について

- ・「仮説の検証（客観性等）が十分でない」：小学校31%、中学校33%
- ・「研究成果の積み上げが十分でない」：小学校24%、中学校29%
- ・「研究の内容が日常の教育実践に十分生かされていない」：小学校17%、中学校10%

校内研究には、基本的に科学的な研究手法が用いられており、ほとんどの小・中学校が研究仮説を設定し、それに基づいて取組を進めている。同様に、校内研究を進めていく上で研究仮説が必要ともとらえている。

学校全体で1つの研究仮説を設定することで、担当学年や担当教科、個々の教育課題に違いがあっても、全教職員が同じ方向性（ねらい、内容、領域等）で校内研究に取り組むことができ、教職員の協働性を高める効果もあるだろう。

しかし、研究仮説を設定し、多くの時間を費やした校内研究の取組にもかかわらず、取組後の課題として、「仮説の検証（客観性等）が十分でない」、「研究成果の積み上げが十分でない」、「研究の内容が日常の教育実践に十分生かされていない」という項目を選択している。このことから、研究仮説に基づいた校内研究の在り方について、見直してみることも必要なのではないだろうか。

例えば、「算数科の学習において、一人一人が自分の考えをもてるような算数的活動を工夫し、互いの考えを伝え合う場を仕組みば、進んで課題解決に取り組む子どもが育つであろう」という研究仮説を設定したとする。これは多くの学校に見られる研究仮説の一般的な形式であろう。

確かにこの研究仮説に基づき検証授業を行えば、「算数的活動の工夫」や「考えを伝え合う場を仕組み」という課題解決の手立ては統一できるが、その結果として「進んで課題解決に取り組む子どもが育ったか」ということの検証は難しいのではないだろうか。

仮説検証を困難にしている要因としては、①仮説を検証するための具体的な検証方法が十分に確立されていない、②公立学校では実験群等による比較検討ができていない、③

仮説の中に様々な手立てが盛り込まれているため、検証が複雑になりすぎる等が考えられる。さらに、年間に実施できる検証授業の回数は限られている上、毎回異なった学年・学級を対象に実施されることが多く、それぞれの検証授業のつながりも薄いものにならざるを得ない現状がある。

結果として、検証授業ごとに何が明らかになったかを把握しづらく、研究成果を積み上げることもできにくい。また、取組を通して導き出された成果等についても、汎用性や再現性に欠けるものとなっていることが多いように思われる。

校内研究は教職員の実践意欲を高め、有用性を感じることをめざして、学校全体で1つの研究仮説を設定し、協働して取り組んでいる反面、教職員個々の教育課題との関連が薄れて日常実践とかけ離れてしまっており、学校をより多忙にもしているのではないだろうか。

仮説検証の難しさに気付いていながら、これまで取り組んできた手法にとらわれ、マンネリ化に陥ってしまっていないだろうか。

3 校内研究において多くの時間を要する合意形成とは？

校内研究の年間開催回数について

- ・「校内研究の年間開催回数」：小学校16回以上が91%、中学校11回以上が83%
- ・「研究授業に関わる校内研究の年間開催回数」：小学校11回以上が58%
中学校6回以上が70%
- ・「1回の平均時間」：小学校1.5～2.0時間程度が76%
中学校1.0～1.5時間程度が70%

本年度の校内研究の課題について

- ・「時間の設定・確保が難しい」：小学校78%、中学校77%
- ・「リーダーシップが十分に発揮されていない」：小学校26%、中学校32%

校内研究の課題として、小・中学校の約8割が「時間の設定・確保が難しい」と回答している。その理由として、教職員間の合意形成を重視するために、多くの時間を費やしていることが挙げられる。それは、13 ページで示す①課題の把握、課題解決に向けた手立ての構想、研究仮説の設定にいたるプロセス、②検証授業計画の策定、検証授業の構想、検証授業の実施、事後研究会の実施というプロセスである。

研究仮説・研究主題の設定に際しては、研究主任が提案するというやり方もありうるが、教職員の同僚性や協働性を尊重することから、いろいろな意見を出し合うプロセスを重んじ、時間をかけて合意に至ることをめざすやり方が一般的である。この結果、研究仮説・研究主題は最大公約数的になりがちで、曖昧さを免れないことになる。そのため、研究を進めることが難しくなる一方で、時間だけが過ぎていくという事態を招いているのではないだろうか。

検証授業を行うにあたっては、様々な合意を得ることが一般的である。授業を一つ行う前の段階、すなわち、学習指導案の作成・検討とその修正にかなりの時間を要している。

これらのことは、課題として小・中学校の約3割が回答している「リーダーシップが十分に発揮されていない」とことと関連があるのではないだろうか。校内研究で合意形成を図りながら、リーダーシップを発揮していくことは容易ではない。

第4章 提言

一層やりがいのある校内研究のポイントとは

調査結果と考察をふまれば、これからの校内研究を進めていく上で、次の2つの点が重要と考えられる。

一つ目は、**授業の特性によりふさわしい授業研究を行うこと**である。授業は教員の職務の中心であり、その研究が大切だからこそ、授業とはどのような性格をもっているのか、それに関するどのような研究が有意義なのかを改めて確かめる必要がある。

授業は、教育－学習関係とも呼ばれ、それは教育側と学習側とが必ずしも一致しないことを意味している。教員の伝えたいことがそのまま児童生徒に届く場合もあれば、そうはならないことも少なくない。ある意味でこのズレが、その場ならでの「かけがえのなさ」や「ドラマとしての授業」でもあるのだろう。同じような授業はなかなかできず、同じように授業を進めたとしても、度ごとに違った展開になる。このように、生き物のように変化することが授業の大きな特徴であり、この点を外して研究を進めることはできない。

したがって授業研究とは、「～すれば、～になる」ということを追い求めるよりも、いろいろなやり方を試みて、ねらいとすることが達成できるのかどうかを確かめることにこそ意味がある。つまり、「～すれば、～になる」が授業の幅を狭めていく（やり方を見つけて、それを蓄積しようとすることは、それ以外のやり方を排除していくことでもあるから）とすれば、それとは反対に授業の幅を広げること、もって授業のあり方をより豊かに捉えていくことが重要になる。そこに「仮説－検証」という言葉は必ずしも必要でなく、また用いるとしても数多くの仮説と検証がなされることを意味するにとどまる。「答え」が一つである必要はまったくないのだから。

具体的には、授業を観察するにあたって、客観的なことを求めるのではなく、「私はこのように見た」「こう感じた」と理由を添えた上での主観を大切にすることである。たとえば、検証授業といった大がかりな形をとらず、おおよそのねらいは定めるものの、日常的な授業をまずは授業者が自分で振り返って記録する。また、同僚が見て気づいたことを伝える。そして、それぞれの見方の共通点と相違点を確かめ、なぜ見方に違いが生まれたのかを議論することで、教員間の授業観を深め、理解を広げていく。これらを通じて、より広い視野を獲得できることが研究成果になり、まだわからないこと、謎のままなことが研究課題となるのである。

二つ目は、**校内研究とは学校をより良くしていくための活動全般を指すことを確認すること**である。校内研究は文字通り、その学校ならでの課題について研究することだから、授業が中心になるとしても、これだけである必要はない。学校の基本条件である「ひと」「もの」「かね」を考えれば、教職員の働き方やPTAのあり方、学校の施設・設備やカリキュラム、学校配当予算など、多くの課題が挙がるだろう。

かりに直接の教育活動だけに限っても、学校行事、学級経営といった別の領域、あるいは教材やテストの改善・開発といった局面など、さまざまなテーマを設定できる。授業時間内のことのみを問題にしなくても構わない。そして、校内研究を広く捉え、いろいろな面で学校教育の改善・改革を図るためには、教職員それぞれが学校全体の視野を持ち、問題を発見し、その診断・評価を行うことが研究のスタートになる。

提言 1 授業研究を問い直してみる

授業力の向上に焦点をあてた研究を行う場合、「～すれば、～となるであろう」という課題解決に向けた手だての一般化をめざすことに困難はないか。

困難がある場合、授業者の働きかけを参観者と振り返ることを通じて、各自が授業改善に結びつく気付き（ヒント）を蓄えていくことで、実践的指導力の向上をめざしてみてもどうか。

※実践的指導力の向上をめざす授業研究へのアプローチ（20、21 ページ参照）

【留意点】

- 研究チームを編成する時には、管理職やベテラン教員が持つノウハウを、初任者等（採用1～3年目）に積極的に継承していけるように工夫する。
- 授業の構想段階では、他校で実践されている効果的な取組や先行研究を調査し、やってみるといふことも大切にしていける。
- 事後研究会では、検討場面を絞り込んで論議していくことが大切である。
- 学校現場の負担軽減ハンドブック～子どもと向き合う時間の確保に向けて～（平成24年3月改定）の中にある、調査研究（モデル校）事業のあり方の見直し等を積極的に活用していく。

実践的指導力の向上をめざす授業研究へのアプローチ

ポイント



- 1 日常実践につながる授業力の向上が、一層実感できるようになります。
- 2 時間のスリム化を、一層図ることができます。

1 現状把握

- (1) 模造紙や付箋紙を用いたブレインストーミングにより、自校で「困っていること」「悩んでいること」を出し合う。
- (2) 研究主任等が、国・県・地域・学校における教育課程実施上の課題に関する資料を、収集・整理する。

2 診断

- (1) 研究主任等が作成した資料を全体で検討し、自校の問題点をみつける。
例 「児童の表現が必ずしも豊かではないのではないか」
※授業を通じて解決できることは何なのかに焦点をあてて議論する。



3 問いづくり

- (1) 研究主任等が2を整理し、研究主題を提案、学校として決定する。
例 1-1「文章による表現が重要であることから、作文指導のあり方を見直すべきではないか」
例 1-2「文字を通じた表現だけでなく、身体表現の課題も残っているのではないか」
※研究主題は、複数あっても構わない。
- (2) 研究主題に即して授業研究テーマを決定する。
例 1-1-1「高学年の児童が上手な文章を書く上で、モデル作文はどのように活用できるだろうか」
例 1-2-1「身体表現を促す運動会に向けた体育授業の構成はどうすればよりよいか」
※研究主題や授業研究テーマにおいて、研究仮説を設定しなくてもよい。

4 問いに応じた組織づくりと期間設定

- (1) 研究チーム（小グループ、ペア等）を編成する。（「この指とまれ」方式）
- (2) 前期実施・後期実施等、研究期間を実情に応じて工夫していく。

5 実践

- (1) 授業を構想する。（A4 1枚） ※事前研究会は行わない。
- (2) 提案授業を実施（全員）する。 ※授業観察は、基本的に研究チームで行う。
- (3) 事後研究会を実施する。
提案授業において教師が直面した様々な問題に対して、参観者は「私はこのように見た」「こう感じた」と理由を添えた上での気づき伝える。それに対して提案授業者がどのように考え、どのように意思決定したのか等を中心に議論を展開していく。



6 発表

- (1) 研究チームで、共通点と相違点あるいは不明点について、整理する。
- (2) 研究チームとして、(1)を全校に報告、提案する。
- (3) 授業者が、実践事例「～したら、～とならなかった/～となった」を下記の視点で解釈したものを、簡潔にまとめる。
視点1 指導において、どのようなことが、なぜそうならなかったのか。
視点2 指導において、どのようなことが、なぜそうなったのか。
- (4) 興味深い結果が得られたら、実践事例集（研究紀要）としてまとめていく。

実践的指導力の向上をめざす授業の構想

実践案（5年1組、国語科）

指導者

1 研究チームの授業研究テーマ

高学年の児童が上手な文章を書く上で、モデル作文はどのように活用できるだろうか。

2 授業の構想－試みと予想－

本研究ではモデル作文として、「課題を含むモデル作文」を提示し、推敲する学習を行う。課題を含むモデル作文とは、これまでの児童の実態から見えてきた改善すべき点（自分の考えを整理し、読み手に伝わるように筋道を立てて文章を書く）を取り入れたモデル作文である。課題を含むモデル作文を推敲する学習は、手本となるモデル作文の学習を振り返らせながら、課題を含むモデル作文の改善すべき点について話し合わせ、どのように推敲すればより読み手に分かりやすく伝わるかについて考えさせた。

その後、課題を含むモデル作文を手本となるモデル作文に近づける学習活動も行った。

そこで、本時では、単元導入時に書いた自分の作文についてペアで推敲させた上で、はじめに書いた自分の作文を推敲させる学習活動を行うことで、自分の考えを整理し、読み手に伝わるように筋道を立てて文章を書く力が向上していくと考える。

3 本時のポイント

(1) **ねらい** モデル作文から見つけたよさを自分の作文に生かして書くことができる。

(2) **展開**

学習活動	教師の指導
ペアではじめに書いた作文を読み合い評価をする。	○文章の構成の他、接続詞は適切か、具体例は述べられているかなど、作文用紙の裏の評価表に評価させる。 ・推敲を苦手としている児童には、個別指導を行う。

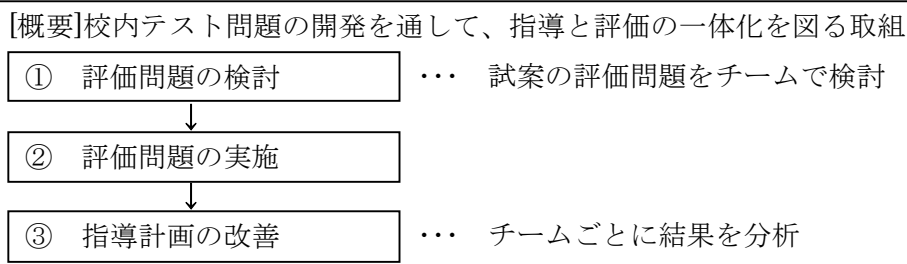
提言 2 研究テーマを問い直してみる

校内研究のテーマは、学校の実情を考えた場合、授業をテーマに授業力の向上をめざすよりも、学校教育の改善・改革を図るために追求すべきテーマがないだろうか。

※学校教育の改善・改革をめざす校内研究へのアプローチ（23 ページ参照）

<校内研究で想定される研究テーマ例>

- 1 不登校やいじめに関するテーマ
- 2 校内テスト問題に関するテーマ



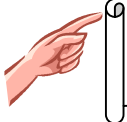
- 3 家庭学習に関するテーマ
 - 4 特別な支援を必要とする子どもに関するテーマ
 - 5 保護者との協働に関するテーマ
 - 6 学級・学年・学校通信に関するテーマ
 - 7 学習規律に関するテーマ
 - 8 「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣に関するテーマ
 - 9 登下校の安全確保に関するテーマ
 - 10 部活動に関するテーマ
- 等

【留意点】

- 校内研究を特に、初任者に対するOJTの場と位置づける。
- 研究成果が、日常実践に転移・発展するよう、多様な試みと評価が推奨される工夫を講ずる必要がある。

学校教育の改善・改革をめざす校内研究へのアプローチ

ポイント



- 1 学校教育の改善・改革が、一層実感できるようになります。
- 2 時間のスリム化を、一層図ることができます。

1 現状把握

- (1) 「ひと」「もの」「かね」「その他」についてブレインストーミング等を行い、自校の現状を把握する。

2 診断

- (1) 教職員が業務を遂行していく上で、どんな問題を抱えているのか、学校で改善・解決できることは何なのかに焦点をあてて議論する。
※ワークショップを積極的に取り入れてみる。

3 問いづくり

- (1) 課題がおおよそ共有されたら、「これについて、どんな点を変えることができるのか」「何をなしうるのか」を、とりあえずのものとして考える。

4 問いに応じた組織づくりと期間設定

- (1) 課題を改善・解決する上で、適当と思われる研究チームを定め、試行（実践・実験）する期間（2ヶ月あればできると判断してもよい。）をおおよそ決める。
※課題が多く、メンバーの意欲と能力があるならば、複数の研究チームを立ち上げてよい。

5 実践

- (1) 大切なことは、いろいろな教職員の試みが奨励されることであり、「～したら、～となった」（ように思う）という事例を多く集めることが主眼になる。
※実践に取り組む前には、ロールプレイやシミュレーションも積極的に活用してみる。
これらは、実際の学校や学級を対象にしなくてもでき、また発想や着眼点をより豊かにできる点で優れている。たとえば、「保護者から、まだ帰宅しないと6時半頃に学校に電話が入った。これにどのように対応すればよいか」といった架空だが、実際に起こる例を上げて、「このようにできる」「あのようにも可能だ」といった多様な議論を促して、より幅のある実践ができるような下支えを作ることができる。

6 発表

- (1) より多くの試みと事例のデータが集められたら、研究メンバーで、「これらをどのように解釈したらよいのか」を議論する。
※「それぞれに違う点も多いが、この点は共通するのでは」「どう解釈してよいのか説明がつかない」という結論でも構わない。
- (2) 同メンバーでの議論が終われば、校内全体に発表して、問いかける。「自分たちとしては、この結果をこのように解釈したのだが、どうだろうか」と。この着地点は、「こんな点はおおよそ一致できるもの」「この点は意見が分かれたもの」という共通性や多様性について整理ができることである。



第5章 資料

1 質問用紙

校内研究等の実施状況に関する調査

大分県教育センター

以下の質問について、「平成22年度の貴校の校内研究等の実施状況」について、本年度の研究主任がご回答ください。なお、回答は別紙回答用紙に記入してください。

以降の設問では、次のように言葉を使用しています。地域、学校によって異なる言い方をしている場合がありますが、下記の定義に従って回答をお願いします。

○**校内研究**とは、研究主題を設定し、研究授業等を通じて年度末に研究の成果をまとめること

○**研究授業**とは、授業前に指導案審議等を実施し、授業を校内の教員等が参観し、授業後に批評したり意見交換したりすること

(1) 学級数（学校全体）について、あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 1～5クラス
2. 6～10クラス
3. 11～15クラス
4. 16～20クラス
5. 21クラス以上

(2) 校内研究の必要性について、あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 校内研究は必要である
2. 校内研究はどちらかといえば必要である
3. 校内研究はどちらかといえば必要でない
4. 校内研究は必要でない

(3) 校内研究の年間開催回数（職員全体だけでなく、学年別、教科別等も含む）について、あてはまる番号を1つ選んでください。ただし、同日開催は、1回とする。

1. 0回
2. 1～5回
3. 6～10回
4. 11～15回
5. 16～20回
6. 21～25回
7. 26～30回
8. 31～35回
9. 36～40回
10. 41回以上

(4) 校内研究の1回の平均時間について、あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 0.5 時間程度
2. 1.0 時間程度
3. 1.5 時間程度
4. 2.0 時間程度
5. 2.5 時間程度
6. 3.0 時間程度
7. 3.5 時間程度
8. 4.0 時間以上

(5) 研究仮説について、あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 設定している
2. 設定していない

(6) (5) で1を選んだ場合は、研究仮説を記述してください。

(7) 研究仮説の必要性について、あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 研究仮説は必要である
2. 研究仮説はどちらかといえば必要である
3. 研究仮説はどちらかといえば必要でない
4. 研究仮説は必要でない

(8) (3)で答えた校内研究の年間開催回数の中で、研究授業に関わる開催回数について、あてはまる番号を1つ選んでください。なお、指導案審議と研究授業が別日の場合は、2回とする。

1. 0回
2. 1～5回
3. 6～10回
4. 11～15回
5. 16～20回
6. 21～25回
7. 26～30回
8. 31～35回
9. 36～40回
10. 41回以上

(9) あなたの学校の研究授業後における協議会等の実施体制について、もっともあてはまる番号を1つ選んでください。

1. 全体会のみを行っている
2. グループ別に協議等を行うが、全体会は行わない
3. グループ別に協議等を行った後、全体会を行っている
4. 全体会、グループ別協議以外の方法で行っている
5. 事後の協議会等を行っていない

(10) あなたの学校の研究授業後における協議会等の実施方法について、あてはまる番号を全て選んでください。

(あなたの学校で事後の協議会等を実施していない場合は、回答の必要はありません。)

1. 授業記録（紙媒体）を活用している
2. 写真を活用している
3. ビデオを活用している
4. 授業評価シートを活用している
5. 付箋を活用している
6. その他（ ）

2 回答用紙

校内研究等の実施状況に関する調査 回答用紙

市町村名		校種	
学校名			
学校電話番号			
研究主任氏名			

設問番号	回答番号					
(1)		<p>・シートの保護をかけていますので、入力するセル以外は 選択することができません。</p> <p>・誤入力の場合はDeleteキーを押してください。</p>				
(2)						
(3)						
(4)						
(5)						
(6)						
(7)						
(8)						
(9)						
(10)						
	「6.その他」の 具体的記述					
(11)						
	「5.その他」の 具体的記述					
(12)						
	「9.その他」の 具体的記述					
(13)						

3 研究仮説及び自由記述内容

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
1		質問、感想、意見等、付箋を種類分けし活用することで、話し合いの効率化を図っている。
2	学習の過程の中に子どもたち同士が、お互いに学びあう場を設定することで、互いに学ぶことの楽しさや達成感を持つことができ、自己を高め合いながら問題を解決していこうとするであろう。	校内研究にじっくりと取り組める時間の余裕が欲しい。 ノート添削や教材研究の時間さえもままならない状況になってきている。
3	「学び合い」学習でつけた力が、他教科の学習、集会や話し合い活動、体験活動他、学習・生活でのあらゆる場面につながり、生かされれば、円滑なコミュニケーションが行われ、個や集団としてより高い学びが展開されるであろう。	
4	子どもたちに「発見・こだわり・対立、共感」が生まれるような子どもの意識に沿った課題を設定し、「聴き合うこと」と「つなぐこと」を大切にしたい授業を展開すれば、友だちと学び合いながら主体的に学習に参加し、学ぶ楽しさを感じることができるであろう。	
5	子ども自らが課題を持ち、解決に向けて、他者との考えを比較・関連させる学習活動・支援を組織していくことを繰り返せば、子どもは主体的に教材文と向き合い、自分の読解力を高めるであろう。	全員が主体的に研究に参加できるよう、事後の分析をみんなで分担して行うようにしている。
6	授業の中で、認められる場や活動できる場を取り入れると、授業への取り組みが意欲的になり、学び合い高め合う力が育つだろう。	
7	45分の授業成立を基本にした学習過程の改善や発問・ノート指導の工夫、「学び合い」を大切にしたい学習内容や学習形態の工夫をすれば、進んで学び、友だちと豊かにつながり合う子どもの育成につながるであろう。	互見授業を軸にした意見交換と研究の深化を図る。 たくさんのご意見を求めず、授業改善による研究の深化をねらう。
8	子どもどうしがつながる学習過程の工夫や学習形態の工夫を図れば基礎学力が定着し、聴く力・伝える力を育てることができるであろう。	年間を通した計画を立て、それに沿って提案する。日常的に互いの授業を見合い、気軽に意見交換できるような職場の雰囲気づくりに努める。
9	授業において、教師が聴く・つなぐ・もどすことを行うことで、子ども一人ひとりの考えが深まり、学び合う姿がみられるであろう。授業において自分の考えを書きこんだり、グループやペアで考えを出し合う活動を行えば、学ぶ楽しさを味わい、互いに「認め合う」、「聴き合う」、「話し合う」関係をつくっていくであろう。	教育課題は多々あるが、ポイントを絞り、長期的な視野に立って研究計画を立てる。さらに実践を中心とした取り組みを、職員の間で共通理解のもと継続的に進めていく。
10	子どもたちが自分の考えを持ち、その根拠となるところを明確にしながら「伝え合い、話し合う場」において意欲的に自己表現できるような場の設定や工夫をすれば、友だちと豊かに学び合うことができるであろう。	
11	自分の思いや考えを出し合いながら課題を解決していく場を設定し、学習過程や学習の場面に応じて、それぞれの考えを伝えたり聞いたりしながら、教師の学びをつなぐ言葉や相互評価のあり方を工夫すれば、子どもたちは互いの考えや思いを伝え合い、聞き合いながら学んでいくであろう。	
12	大切な言葉にこだわって文章を読む活動を工夫し、一人一人の読みを学びあう場を保障すれば、言葉に着目し確かに豊かに読み進める子どもが育つであろう。	日々の先生方の困りに即したものの、授業を観る等の実践的なものなどを中心に研修する。
13	授業のねらいを明確にし、自ら課題解決に取り組もうとする学習過程と子どもたちが話し合える方法を工夫すれば、わかる喜びを感じ、主体的に取り組む子どもが育つであろう。	年間計画の中で校内研修日を設定し、ぶれることなく徹底して研修を行う体制作りをすれば、効果的でモチベーションも上がると考えられる。また、校内での話し合いの時も小グループごとになると意見を出しやすい雰囲気になる。
14	算数科の学習指導計画の中に子ども達が学習意欲をもてる場面設定を位置付け、体験と数理を結びつけて考えることができる算数的活動を工夫し、一人ひとりの考えを生かした話し合い活動ができるように支援すれば、自ら課題を持ち、学びあうことができる子どもが育つであろう。	
15	一人ひとりが思いや考えを持てる課題を設定し、少人数グループの言語活動を通して立場や根拠を明確にし、友だちの共通点や違いに気づかせ、「学び」をつなぎ合わせ交流させれば、伝え合い高め合う子どもが育つであろう。	学校全体で、簡潔で具体的な目標を1つ設定し、短い期間で成果について検証しながら実践する。また、教師一人ひとりが校内研究のテーマを受け、個人的なテーマ設定を行い、毎日の教育実践の中で実践検証しながら研究を進めることが大切。大げさで、詳しい検証は必要ない。簡潔で具体的な内容が必要。各教職員の実践的な力にならない限り、校内研究の意味がない。
16		教職員全員が研究主題を意識して日常の教育実践に取り組むとともに、日々の授業の中で授業改善を行い指導力の向上に努めていこうという意識を常に持つことが大切である。研究主任がその必要性を説いていくことが大きな役割であると思うし、課題の共通認識のもと実践していくことが大切である。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
17	学び合いの授業や複式授業においては、学級の実態に応じた学習形態や学習過程を工夫すれば、子どもたちは分かる喜びや学び合う楽しさを実感できるであろう。	
18	個や集団の実態をもとに、学習過程の中にお互いの思いを伝え合う場面を設定していけば、子どもの話す力や聞く力が育ち、生き生きと表現し伝え合うことができるようになるであろう。	仮説の検証方法について、十分共通理解を図った上で授業実践および研究授業を仕組んでおく必要があると思う。そうすれば、事後研やその後の実践・研究が効果的・効率的に進んでいくと思う。
19	言語事項に関する力や音読の力を高めるとともに、文章事実に基づく具体的な読み取りの方法を工夫したり、子どもの意見交流を活発にする発問を授業の中に仕組んでいけば、子どもたちに確かな読みの力が身につくであろう。	時間の確保が難しいが、内容によってはグループ別(低・中・高)の研修をもつ方が効果的。
20	授業のねらいを明確にし、1時間の学習過程にそって個に応じた具体的な指導・支援の工夫を行い、互いの思いを伝え合う場を設定すれば、どの子どもも自分なりの意見や考えを深め分かる喜びを感じ、主体的に伝え合う力を高めることができるであろう。	可能なものはあらかじめ机上提案しておき、研修の効率化を図る。
21	国語科における授業の組み立てを工夫し、各領域を学習する方法を身につけ言語感覚を育てるとともに、計画的・継続的に語彙力を伸ばしていけば、記述された表現の主旨を正確に把握する読解力を定着・向上させることができるであろう。	
22	書く活動を意図的に、継続的に設定し、適切な指導・助言をしていけば自分の思いや考えを表現する力を育てることができるであろう。	授業だけでなく、日常的に「書く」活動を取り入れて、常に「丁寧に書いて読み直す」という意識付けをしていく。
23	算数科において、子どもの思考に沿った学習過程や学習素材との出会わせ方、子どもたち相互の学び合いの場を工夫していけば、『考えることの楽しさやわかる喜びを感じ、互いに認め合い支え合う気持ち』を育てることができるであろう。	
24	国語科においてつきたい力を明確にし、一人ひとりの確かな読みの工夫と読み取ったことを交流し合う場を工夫すれば、学ぶ楽しさを知り、確かな国語の力をつけることができるであろう。	
25	体育科の授業において、子ども一人ひとりのチームに、乗り越えられる見通しが持てそうな場や課題を設定することで、運動に対する意欲・関心をもたせ、乗り越えていく過程や成果に対しての評価を適切に行えば運動の喜びや楽しさを味わわせることができ、積極的にいろいろな運動に挑戦しようとする子どもが育つであろう。	
26	授業の中で、自分の思いを持ち、自分の考えを「根拠」と「理由」にして述べたり、相手の考えと比較しながら聞いたりして、考えの違いやズレを受け入れいかしていこうとするような授業のあり方を工夫すれば、互いの考えを尊重し、自分の思いを伝え合うことができるであろう。	1人1実践を全員で見合う、協議の時間だけで不十分な場合は、アンケートをとり全員の声を反映させる。研修時間確保のため、予め時間設定をしておき、開始時刻を守る。
27	生活リズムを点検し、できているところや不十分なところを明らかにして、家族の話し合いをし、「我が家の生活リズム」のルール作りを行い、実践すれば生活リズムの習慣化ができるであろう。	
28	言語環境を整え、学年や文章に応じた読みのめあてを持たせ、読みの手がかりや自分の思いや考えの持てる工夫をすれば、豊かで確かな読みの力の基礎が育ち、自分の思いを持ち、伝え合うことができるであろう。	
29	算数科を中心に、理解の基礎の押さえにつながる学習課題の設定や考えをつなぎ広める学習過程の展開を行いながら、個々の思考の流れを見取った評価をしていけば「考えることを楽しく感じ、つながり合いながら、どの子も伸びていく」であろう。	
30	国語科を中心とした学習において、つきたい力を明確にし、課題解決のための学習方法や話し合う方法を身につけさせ、自分の考えを持たせる工夫をしていけば、課題解決の過程で方法を活用して、自分たちで解決しようとする意欲が高まり、相手を受け入れながら自分の思いや考えを伝え合うことができるようになり、友だちのよさや自分の成長を感じ取り、共に学び合う子どもが育つであろう。	効果的・効率的な実施ができていないので、どのようなやり方があるのか知りたい。
31	国語科学習を中心として、自分の考えを持つための手立てを工夫し、伝え合う活動を仕組んでいけば、言葉で自分を表現し伝え合おうとする子どもが育っていくであろう。	職員会議と分けて校内研の時間を確保する。 研究推進部を設けて、効率的に校内研を進めるために方向性を出す。
32	小学校では「聞く」「話す」の活動を中心に、それぞれの発達段階に応じてバランスよく組み入れ、小中の連携を図りながら9年間を見通した指導をしていくとともに、小規模校の特性を生かし、学校間交流や異学年交流を取り入れて、児童が英語を使って相手と関わったり話したりしたいと思う場の設定や工夫をすることで、英語に親しみコミュニケーションの素地を身に付けた児童を育成することができるであろう。	計画的な研修計画と研究内容の充実を図ることが重要である。また、事後研でワークショップ型を取り入れることで、年齢や経験年数等に関係なく誰もが意見を出しやすくなり、研究協議が活性化される。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
33	小学校では、「聞く」「話す」の活動を中心に、中学校では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をそれぞれ発達段階に応じてバランスよく組み入れ、小中の連携を図りながら9年間を見通した指導をしていくとともに、小規模校の特性を生かし、学校間交流や異学年交流を取り入れて、児童・生徒が英語を使って相手と関わったり話したりしたいと思う場の設定や工夫をすることで英語に親しみ、コミュニケーションの素地・基礎を身につけた児童を育成することができるであろう。	研究協議に、グループ討議を取り入れた。全員発言ができるようになり、研修内容が身につくようになったと思う。今後も、グループ討議を取り入れていきたい。
34	小規模校の特性を生かし、学校間交流や異学年交流を取り入れて、児童が英語を使って相手と関わったり、話したりしたいと思う場の設定や工夫をすることで英語に親しみ、コミュニケーション能力の素地・基礎を身につけた児童を育成することができるであろう。	事前の計画、打合せ、改善をしっかりとっていくことが大切。
35	課題を意識して、学び合いと振り返りを通して、自分なりのまとめができれば、各自の発表(話す)力が向上してくるであろう。	日常の実践につながる校内研究でありたい。一人ひとりの子どもの成長を見つめ合うようにしたい。
36	地域のひと・もの・ことに関わる体験活動を設定し自ら課題を持って、知識・技能を活用しながら主体的に探求し、自分なりの考えや思いを持って、進んで交流していく学習活動を展開すれば、聴く・話す・考える・まとめる力が高まり、豊かに伝え合うことができるであろう。	
37	日常の活動を通して、子ども同士がお互いの思いを安心して話させる関係づくりを基盤に、共に学び合う学習が繰り返されていけば、お互いのよさ・がんばりを認め合うことができる。また、一人ひとりの悩み・困りに気づき、それを解決するために支え合いながら生活をつくっていく集団に育っていく。	みんなで具体的な取組をしっかりと共通理解し、みんなで実践していきたい。
38	「3つのきく力」(聞く・聴く・訊く)に着目し、立場や根拠を明確にして考えを相互に伝え合う場を設定した学習を構想すれば、伝え合う力が高まり、考えを深め豊かに表現する子どもが育つであろう。	
39	一人ひとりの子どもが自分の考えと友だちの考えの違いやその根拠を明確にする交流授業の工夫に取り組めば、「聞く力」「話す力」が高まり、互いに学び合いながら考えを深める子どもが育つであろう。	
40	子どもが自ら課題を持ち、解決に向けてお互いの考えを比較検討させる学習活動・支援を工夫すれば、子どもが主体的に取り組み、自ら考える力を高めていくことができるであろう。	
41	教師が学習規律を大切にし、授業の中で子どもたちにつけたい力をはっきりさせて「構造的な授業」を定着させていくことで、子どもたちは主体的に学習し、生活に役立つ確かな言葉の力が身につくであろう。	校内研究が児童の学力、学習力に即つながるものでなければ、あまり意味がないと思う。そうなるように研究主任を中心にして、職員全員が同じ方向を向いて研究を進めることが大切だと考える。
42	1時間の授業の構造(流れ)を明確にし、子どもの思考の流れを正しく導いたり互いの考えを交流し合ったりする場の設定や手立てを構築していくとともに、板書とノートを一体化させることで子どもが主体的な「学び」を体得し、確かな力を育むことになるであろう。	
43	教材との出会わせ方を工夫し、子どもの感想から学習の方向性や課題をつくったり、自分の考えを持つ場や出し合う場を設定し、お互いの考えに気づかせ深める工夫をしたりしていけば、子どもたちに「伝え合う力」が育つであろう。	研究推進委員会での事前・事後の話し合いにより、方向性を明らかにし、進めていくことが有効と思われる。
44	自分なりの根拠や立場を明確にして考えを書かせ、意見の相違に気づく板書や発問の工夫をし、話しあう場を設定すれば、自分の言葉で豊かに表現する子どもが育ち、伝えあう力を高めることができるであろう。	研究に効率を求めるのは如何なものでしょうか？
45	書く内容や目的に応じて言語活動を工夫していけば書く力がつき、自分の思いや考えを豊かに表現できるようになるのではないかな。	時間確保が難しいのでしっかりと計画を立てておく。隣接学校などで日常的に見合う授業をし、高め合う。
46	子どもたち一人ひとりの学習速度や到達度、興味・関心、生活経験に目をむけた問題解決型の授業を工夫し、自分の考えを的確に表現したり、他者の考えとの共通点や相違点を交流したりするコミュニケーションの場を組むことによって、自ら学ぼうとする意欲と思考力・表現力を持った子どもが育つであろう。	本校の場合、教職員も児童も少人数なので、フレキシブルに研修ができています。
47	一人ひとりの読解力を高めて、課題や発問や交流するための手立てを工夫すれば、子どもは豊かに伝え合い表現できるであろう。	
48	学習アイテムを活用し、学習材を読み進めていけば、読みの学び方や楽しさに気づき、「読みの力」の定着を図ることができるだろう。	先進地視察を積極的に行って目標を明確にし、全員で共通理解の上、授業実践を柱に研究を進める。全員2回以上の授業公開と、互見授業の活発化。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
49	子どもの読みを生かし、子どもが読みの方向性を持てるような指導過程や子どもの意識に沿った課題をつくることで、子どもは進んで読みを深めたり言葉のイメージを広げたりして、内容や構成を読み取ることが出来るであろう。さらに、その力を生かしていく学習の場をつくってあげれば、いきいきと豊かに表現する子どもが育つであろう。また、1時間の授業の中に「自分の考えを書く」時間と「わかったことを書く」時間を設定してあげれば、書くこととする意欲が高まるであろう。	指定の研究ではなく、学校の実態に応じた研究がなされていること。
50	学習活動の中で、「子どもが学びあい、つながりあう」場を設定すれば、学習意欲が高められ、基礎的・基本的内容が定着し、一人ひとりに確かな学力を育てることができるであろう。〇いろいろな運動を経験することや基本的な生活習慣を身に付けることで、体を動かす楽しさや喜びを感じることができれば、自ら運動や遊びに取り組むことができる児童が育つであろう。	少ない研修時間の中で、先を見通した研究計画と内容を示しておくことが必要。・教材研究、指導計画に費やす時間の確保。
51	自分の意見が学習集団全体の中でどのような位置づけにあり、他にどのような考えがあるのかを意識させる板書の工夫や、考えを交流し合う学習活動を取り入れれば、思考力、表現力を育むことができるであろう。	職員間で低学年、中学年、高学年などのグループ別に協議を行い、職員全体の場でも話し合えば、より個々の意見が反映されると思うが、時間の確保とのバランスを考慮する必要がある。KJ法などの協議方法を取り入れ、全員意見の研修を進めたい。
52	新教科において、言語活動を充実させ、自分の考えを持ち、学び合う学習の手立てを工夫すれば、「ことば」(思考力・判断力・表現力)の育成が図られるであろう。	情報の共有化 ・研修資料などを事前に準備し、個人研修 ・学年部会の設定
53	授業での課題づくりや話し合いの活動の場面で、資料や作品を比較する思考を行えば、共通点や相違点に気づいたり、根拠をもとにした自分の意見を持ったりすることによって互いの思いや考えを交流し合うことができるであろう。	
54	子どもたちが日常の取り組みで、自分の思いや願いを表現するための語彙の習得をし、さらに授業の中で考えを互いに伝え合い、認め合う活動を経験してあげれば、自ら学ぶ楽しさを感じ、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。	研究の方向性が確認されたならば、決定したことを全員が実践する。実践上の課題を個々が具体的に把握し、全体研究の場で意見交流を行い、研究に生かす。
55	各教科において「基礎・基本の徹底」を図り、「日常化へとつながる活用学習」をすることで、「意欲的・能動的な姿勢」が育まれ、「ことば」(思考力・表現力)が身に付くであろう。	
56	発達段階に応じたKEYSTAGE制(「ことばの不思議科」「不思議探究科」)を中心に、すべての教育活動において、①自分の体験したことや経験したことを感情豊かに表現したり、読み取った違いなどを根拠にし、自分の考えを適切に表現する活動。②自然や社会の事象における変化や違いに気づき、比べたり、仲間わけしたりする活動を取り入れながら授業を創造すれば、探究する力の基礎となる活用能力を育成することができるであろう。	
57	自ら進んでことばに親しめる環境を整え、継続的な実践によりことばの感覚を高めるとともに、意欲的に取り組める学習課題を設定し、授業の展開や話し合いの仕方などの手立てを工夫すれば、子どもたちは互いに学びあい、考えを広げ深めることができるであろう。	全教職員の共通理解を得て、同じ方向で進めるためには、短時間でも研修の時間を何回ももつことが大事だと思う。
58	子どもたちの基本的な生活習慣や運動能力の実態を明らかにし、外遊びや教科体育・教科外学習等の様々な場面で楽しく運動に取り組む場や方法を工夫し、子どもたち自身が自分の体力の伸びを実感すれば、子どもたちは主体的に運動に親しみたくましく育っていくであろう。	研究仮説の検証のため、全員が授業実践をし、お互いに見合い、意見交換をする。
59	「読書指導」において、読みたくなる場づくりや読書に対する目的意識を持たせる工夫を意図的・計画的に行うとともに「国語科の授業」において「読む力」の基礎となる言語事項や音読の指導を図書館活用を通して展開したり、図書館を活用して学習教材と関連した作品の事前・事後の調べ学習等の指導の工夫をしたり、場面読解や心情把握をする体験的活動(グループや個人)を取り入れたりするなどして、図書館を活用した学習過程や指導を工夫すれば、本に親しみ、意欲的に「読む力」を身につけることができるであろう。	
60	算数的活動等を通して出された考えを板書に構造的に位置づけ、発問を工夫しそれぞれの子ども考えを共有化したり互いに共感させたりすれば、自分が友だちからみとめられていることを感じ安心して話せるようになり、話し合い活動で自分なりの言葉で考えを表現できる子どもが育つであろう。	時間確保と共通理解、全員発言を目指して校内研究を運営しているが、なかなか効果的・効率的な在り方というところまではいっていない。
61	子どもの興味・関心を高める教材の工夫をし、算数的活動を多く取り入れ、子どもに分かりやすい板書を工夫・改善をすれば、できる・分かる喜びを味わいながら楽しく算数学習に取り組むことができるであろう。	定期的に少人数グループによる(学年部会など)話し合いを入れるとよい。
62	子どもたちが興味・関心をもてる問題を提示し、算数的活動を工夫すれば、わかる喜び味わうことができ、意欲的に学習に取り組むであろう。	
63	体験したことから生まれた関心や疑問をもとに課題を見つけ、自分なりに調べたことを発表し、他者と意見交換する学習活動を行うことで、新たな課題を見つけ自力解決に向かって生き生きと取り組むであろう。	
64	国語科において、言語活動を通して身につけさせたい力を明らかにし、自分の考えをまとめ表現するという言語活動を工夫して取り入れていくことで、思考力、判断力、表現力が向上し、他者に共感しながら自分の思いや考えをわかりやすく伝えることができる子どもを育成することができるであろう。	研究の方向性を共通理解した上で、それぞれの立場で考えを出し合い、進めていくこと。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
65	国語科「話すこと・聞くこと」の指導をもとに、語彙を増やす工夫や教材のよさを生かした指導の工夫や個に応じた支援を行うとともに、「話型」「聴型」指導やスキル学習を日常的に行ったり、様々な場面で発言の機会を増やしたりすれば、話しの内容を正確に聞き取り、自分の考えたことや伝えたいことを進んで話すことができるであろう。	
66	考えを出し合う場で、一人ひとりの考えを板書に位置づけたり、互いの考えの相違点や共通点がわかるような板書の工夫をしたりすれば、友だちの考えとのつながりのある発言をしようとする子どもの姿が見られ、国語学習に意欲的に取り組めるであろう。	
67	説明的な文章を読むことを苦手としている児童に対して、マッピングを活用した学習過程や活用の仕方を工夫していけば、説明された事柄のつながりやまとまりをとらえることができ、説明文を読む力が高まるであろう。	ワークショップ型研究会を実施している。小グループに分かれて分析するので、参加者全員が発言しやすい。
68	子どもが必要感をもって読んでいこうとするための課題や言語活動を位置付ければ、自分の考えをもち意欲的に教材文を読み進めていくであろう。	
69	運動習慣や生活習慣の振り返りや見直しをし、お互いが関わりあえる学習や多様な動きにつながる運動の基礎感覚を伸ばせる場を設定し、運動を継続させていけば、進んで運動に取り組み、生き生きとした心身ともにたくましい子どもが育つであろう。	本年度の研究指定が学校図書館活用推進事業モデル校、心を育てる体験活動推進事業、愛鳥モデル校と多い中、研究指定以外で要求されている研究・生徒指導・特別支援教育関係・学力向上施策等、多岐にわたる種類・量となっている。そのため、時間の設定・確保が難しいという実態がある。
70	人やものとのかわりを生む体験活動を組み、子どもの思いや考えを出し合う場を設定するなかで、自他の考えの相違に気づかせ自分の考えを見直す活動を組めば、子どもの伝え合う力が高まりともに生きる子どもが育成できるであろう。	全員が実践できるよう、進み具合は遅くとも確実な一歩を踏ませていくことが大切。
71	ワークシート等を生かした学習過程の工夫をし、自分の考えを持たせる場等を保障すれば、生き生きと話し合い、互いに学び合う子に育つであろう。	全体研修のみでなく、学年部研等、少人数での話し合いを有効に活用したらよいのではないかと。
72	課題づくりや導入を工夫することで、一人ひとりが解決の手立てをつかめば、考えを持つことができ、その考えを認めたり深めたり広げたりする場を積んでいけば、互いに学び合う力が育つであろう。	
73	学習場面において家庭・地域との連携を図った活動を仕組み、自分の思いや考えを持たせ伝えたり受けとめたりする伝え合いの場を工夫すれば、学習意欲が高まり、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。	
74	国語科の授業において、相手や目的・意図に応じて身につけた言語能力を生かす主体的な言語活動を展開し、生き生きと活動できる指導法の工夫をすれば、子ども一人ひとりが自分の考えや思いを持ち仲間に伝え合うことができる子どもが育つであろう。	学期毎及び年間を見通した計画と立案の提示。研修資料の早めの作成と配布。
75	子どもの思考に沿った学習過程を踏まえ、筋道を立てて発表し合う活動を仕組み、学ぶ楽しさを味わい、主体的に学習しようとする子どもが育つであろう。	事後研にKJ法を取り入れ、全員が討議に参加し、自分なりの改善法を見出せるようにする。研修したことを実践に移し、「ちょっと見授業」(互見授業)で深めていく。
76	(高学年部)事象と感想、意見の関係に着目し、段落ごとにまとめた要点をもとに文章構成図を把握すれば、説明的文章の内容を読み取ることができるであろう(22年度分・低学年部、中学年部仮説もあり)	※(要望)参考意見が集まった場合、是非教えてもらえると助かる。
77	文学的文章での学習過程において、自分の考えをはっきりさせるための書く活動を工夫したり、作者の意図する心情表現にまで目を向かせる板書の工夫をしたりすれば、それぞれの考えの違いがわかりやすくなり、各自の考えが深まり、豊かな読みにつながるであろう。	学校現場が忙しくなりすぎている気がする。3つの研究会をひかえて、全員で取り組むのが困難になってきている。また、意思統一の難しさも感じる。そこで、今年は3部に分かれて、それぞれで研修を進めている。
78	学習の中に子ども同士の聴き合う関係を重視した学び合いの場(ペア・グループ・教師と子ども)を設定し、教師の関わり方や、授業形態の工夫をすれば、子ども同士の学び合いが豊かになるであろう。	今年度ミドルリーダー研修に参加させていただき、自校の研究を進めていく上でとても役だった。機をもらえこの様な研修をしていただくとよいと思う。
79	興味関心をひく課題や導入の仕方を工夫し、一人一人の思いや考えを互いに伝え合う場面において、言語活動を取り入れた学習活動や学び合いを組織する教師の働きかけを工夫すれば、進んで自分の思いや考えを伝え合う子どもが育つであろう。	毎日が研究だという意識をもち、それを出し合う場を十分保障する必要がある。
80	高め合う場面において、算数的活動(ワークシート活用や具体物操作など)を通してどの子にも自分の考えをもたせ、それをもとに学習形態を工夫して交流させ数理を追求させることができれば、わかる喜びを持ち意欲的に学習に取り組む子どもが育つであろう。	研修時間の確保が難しいので、事前に研修内容を知らせ、計画的に取り組むことが必要。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
81	お互いの意見を聴き合うことを大切に、個に応じた支援や意見をつなぐ場の工夫したならば、さらに学び合いが深まるであろう。	
82	困りを抱えた子どもへの適切な支援をすれば、達成感や充実感を味わえるであろう。	提案内容を予め配布して、事前に読んでおいてもらうようにし、効率的に進められるようにする。
83	各教科において言語活動の指導方法を工夫し、他者と関わり合う場を設定すれば、進んで話そう、聞こう、関わり合おうとする子どもが育つであろう。	研究仮説を日々の授業の中で一人ひとりの教職員がどう具現化し、検証し、全体にフィードバックしていくか。共通理解を図りながら研究を推進していくのが難しいと思います。
84	児童の実態を明らかにし、それぞれのつまづきに応じた手だてやかかわり合う場の設定を工夫すれば、一人ひとりが主体的に学ぶ子どもが育つであろう。	
85	読むことの指導において、自分の考えや立場をはっきりさせ、友達の考えのよさや自分の考えと異同を考えさせる活動をくめば、自分の考えを持ち、進んで表現し伝え合う子どもが育つであろう。	仮説に沿って、授業を見る視点を明確にし、事後研では、討議の柱を絞って仮説の検証ができるようにする。
86	自分の考えや思いを持つための学習活動や考えを出し合い聴きあう場を工夫すれば、進んで考え生き生きと表現する子どもが育つであろう。	
87	子ども同士がつながる学習過程や学習形態を工夫していけば、主体的に学び、自分の力で課題解決していこうとする意欲や態度が育つであろう。	校内研究会に他校の先生に参加してもらい、意見をもらえるととても参考になる。
88	自分なりの考えや思いを持たせ、互いの考えや思いの根拠を問わせながら話し合う活動を行うことができれば、よりよいものを導き出すために伝え合おうとするであろう。	
89	国語科の授業において、学習過程において伝え合う活動を設定し、「話す」「聞く」手立てを工夫していけば、子どもたちは互いの考えを、すすんでわかりやすく話したり、しっかり聞き取ったりするであろう。	校内研究では、職員間の共通理解が大切である。ただ、時間が満足に取れず不十分な場合が多い。本校では、学年部からの代表者で研究推進部を組織し、発達段階に応じた仮説検証の推進や全体とのパイプ役として機能させている。
90	ねらいに即して子どもが意欲的に取り組むことができる言語活動を仕組み、一人ひとりの思いや考えを伝え合う場の工夫をすれば、ことばを大切に自ら考え表現する子どもが育つであろう。	校内研究を有効に生かすには、各同人が各学年や学級の子どもたちどのように還元するかを前向きに考える態度を持つことが大切だと考える。そのためには、担当者として研究内容を狭く限定し縛ることなく、研究内容に対する自由な発想や発言および実践が生まれるような雰囲気作りをしていくことが大切だと考えている。
91	子どもに興味・関心を持たせる教材教具や指導方法を工夫し、外国語の表現に慣れ親しませながら楽しく学ぶ体験をさせていけば、言語や文化の違いに関心を持ち、進んでコミュニケーションを楽しみ、生き生きと活動する子どもが育つであろう。	研究の質を高めるため、外部講師を依頼し、さらに研究を進めていきたい。
92	国語科授業の「かんがえる」「ねりあう」活動において、すすんで「聞く」「話す」ことができるような手だての工夫をすれば、子どもたち一人ひとりの思いや伝えたい内容をわかりやすく話す力や相手を意識して聞く力が高まるであろう。	※設問(9)は全体会の後、グループ別に協議等を行っている。
93	子どもたちの運動習慣や生活習慣を確立し学びを支える体力・気力の向上を図るとともに、45分をより有効活用するための指導方法の工夫改善を図れば、自ら考え主体的に学ぶ、すこやかな子どもが育つであろう。	計画的に早めに提案し、資料等についても事前配布し一読しておいてもらうよう配慮する。研究推進委員会を活用し、骨子を整理したうえで提案する。
94	授業において児童の学習意欲を引き出す指導方法を工夫すれば、自ら学ぶ児童が育成できるであろう。	研究と日常の教育活動の一体化
95	課題を追求する場において一人ひとりの考えの違いを明確にすればかかわり合う姿が見られるだろう。	
96	『学び合い』学習プラン』の教材化、学習組織、支援の条件を明らかにしていけば、確かな学力を高めるであろう。	効果的な在り方については、1回1回の研修のねらいをはっきりさせ、学校の研究課題を共通認識していく必要がある。効率的な在り方については、時間がかかるけど、互いの授業を見合い、子どもの捉えをしっかり行い研鑽を積んでいっている。
97		全員が1回以上の授業公開(全体研、学年部研)を行い、授業記録(ビデオ)を細かくおこし、分析し、成果・課題を具体的に把握して、それを日々の授業に生かしていくことが、一人ひとりの力量を高めることにつながると考える。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
98	課題が出た後、子どもたちに考えの拠り所となる文や言葉を見つけるための間合いを保障することで、自分の考えを伝えたいという気持ちが高まり、相手の考えを納得したり、説得したりしようとするかかわりが生まれるであろう。	事前の準備をしっかりとしておくこと。 グループ別、課題別討議等、もち方の工夫を図る。
99	「活用する力」を育む授業の工夫をすれば、子どもたちは「伝え合う喜び」や「解決する喜び」を味わい、自己肯定感を高めていくであろう。	教職員の経験や個性・能力が生かせる研究を進め、教職員の自己肯定感を高める工夫が必要と考える。
100		本校の研究の積み上げ、並びに、同じような研究をしている他校を参考にしながら、より深め、発展させていく。
101	相手の話を聴き、わかったことや訊ねたいことを態度や言葉で表し、自分の考えや立場の表し方を工夫すれば、伝え合う子どもになるだろう。	
102	自分の考えを伝えたいような場を設定すれば、子どもたちは意欲的になり、互いに考えを高め合っていくことができるであろう。	研究推進委員会で予め原案を作成し、全体会で諮り、会議の効率化に努める。
103		授業を公開し(本校は一人が年5回)、子どもの姿から校内研究を進める。
104	かかわりの中で、友だちの考えの中心に目を向け、自分の考えと比較し、考えを深められるような支援を行えば、子どもたちは、聴き合い、伝え合おうとするであろう。	教科研究だけでなく、学力、人権、生徒指導、情報等々、様々なことに取り組みなければならず、深まりに欠く。
105	学習活動の中に書く活動を意図的に仕組めば、自分の考えがもて、かかわりも深まり、確かな力がはぐくまれるであろう。	成果と課題をきちんと整理し、検証する課題を簡素にして(欲張らずに)、その仮説と検証を繰り返す。
106		推進委員を位置付けると、効率的に進むと感じた。全体提案の前に推進で話し合うことができるから。
107		本校では各教諭が年2回の個人研を行い、参加可能な限りその授業を見合っている。事後研は、所属する学年部で水曜(全体の研修日)以外で行っている。授業に参加した他の学年部の先生方は、付箋にて感想や意見を出してもらい、時間の精選や生み出しを図っているが、時間生み出しに苦労している。
108	教育活動を積極的に取り入れた学習を積み重ねるとともに、話し合いの場面や課題を工夫すれば、子ども達は、自分の考えや思いを持つとともに周りの子とかかわり合いながら、自信を持って表現できるようになるであろう。	定期的な校内研修の実施。全体研に向けて、細かな指導主事との相談、連携をとり、研究をすすめていく。
109	自らの力で課題解決できるような算数的活動を工夫し、それぞれの立場を持って学び合う場を十分に保障した学習過程を仕組んでいけば、一人一人ができる喜びと学ぶ楽しさを味わいながら確かな力をつけていくであろう。	日常の授業の中で、校内研究テーマを取り上げ、日々実践していくこと。
110	話し合い活動を通して、子どもたちの意見を広げ、深める問いの工夫や学習活動の工夫をすれば、話し合うことのよさを感じ、表現しようとする子どもが育つであろう。	互見授業をし、お互いに学び合う雰囲気を作る。
111	ことばコミュニケーション科において、児童の生活や教科等で学習したことがらと関連させた題材をもとに、発達段階に即した指導過程を取り入れ、主として英語を用いた言語活動を通して、思いを伝え合う楽しさを味わわせる指導の工夫をすれば、進んで自分の意志をことばで表現するとともに、相手の思いや考えを理解し、互いをよりよく理解し合うためのコミュニケーション能力の素地が培われるであろう。	研修内容を精選して、徹底する。
112	自分の考えをはっきりさせたり、伝え合ったりするための言語活動を充実させれば、自分の思いや考えを意欲的に伝え合う子どもが育つであろう。	初めて担当になったので手探りである。担当1人で抱えず、研修部会等の組織を生かしていく。
113	自分の考えに見通しを持たせるような工夫をすれば、自信を持って表現することができ、わかる喜びと楽しさを味わうことができるであろう。	事後研究会において、KJ法などの具体的な検証方法を取り入れ、より分かりやすく成果や課題を把握することで、内容を継続できるように取り組んでいければと考えている。
114	課題解決のための板書を工夫し、算数的活動を生かした学び合う場を保障すれば、学ぶ楽しさやできる喜びを味わい、意欲的に取り組み自ら追求しようとするであろう。	教員が意欲的に取り組むように、事後研に検証方法等を工夫し、意欲化を図る。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
115	学級活動において、集団を高める活動の場を設定し、子どもの自主性を育てる教師の支援及び指導のあり方を工夫すれば、互いの考えを伝え合い、支え合おうとする子どもが育つであろう。	研修時間の確保が難しい中、研究部会と全体研との効果的な連携、運営を考える。
116	目的意識をもって主体的に取り組む活動を工夫し、学び合い表現し合う場を仕組み、生き生きと学ぶ子どもが育つであろう。	研究授業に関わる授業の「全員公開授業(互見授業)」や「模擬授業」による事前研を予定している。
117	互いの心をつなぐ場を設定し、伝え合いやふり返りの活動を工夫していけば、認め合い、支え合う子どもたちになるであろう。	
118	書く活動を通して自分の考えをもたせたり、話し合いの場を工夫したりすれば、子どもは進んで話し合い、自分の考えを伝え合い、見直し、より深めることができるであろう。	事後研での時間設定をきちんとする。(特に仮説検証の時間を確保する)
119	子どもの実態把握の方法を工夫し、一人一人のかかえる問題や思い、願いを知り、その実態に合った取り組みをすると同時に、教職員自身の人権意識を高める学習を組むことにより、子どもと教職員の人権感覚が高まり、他者とのつながりをもととする(一人一人が生かされた)学級集団ができるであろう。	
120	つけたい力を明確にし、読みの効果的な指導や支援を工夫すれば、一人ひとりの読みが高まり、意欲的に自分の考えを伝えようとする子どもが育つであろう。	
121	算数科における表現活動で、表現させるための支援の方法を工夫し、友だちにわかってもらえるように話したりわからないことを聞いたりとできるような学び合いの場を取り入れていけば、豊かにかかわり合って学習する子どもが育つであろう。	
122	互いの考えを交流する場において、考えの違いがわかるように視覚化し、考えを見直すための問いや考えを収束するための手だてを工夫すれば、自分の思いや考えを豊かに表現できるであろう。	学年部で互見授業をしながら指導案づくりをするなど、意欲的に取り組んでいるが、勤務時間内には話し合いの時間が取れない状況がある。
123	体験を生かす場を取り入れながら、ことばや文章に対する思いや考えの共通点・相違点への気づきを大切に学習過程を工夫すれば、豊かに適切に表現し合う子どもが育つであろう。	本校は1学年4～5クラスあるので、授業研(本番)に向けて、学年内でいろんなパターンを試してみることができる。事後研に授業記録(子どもの姿)を有効に活用したい。
124	考えを持てるような算数的活動を仕組み、自分の考えを見直していく場を工夫すれば、自信を持って意欲的に学習に取り組む子どもが育つであろう。	
125	考えを持てるような算数的活動を仕組み、自分の考えを見直していく話し合い活動のさせ方を工夫すれば、進んで課題解決に取り組む、考える力を身につけるであろう。	校内研究が日常の実践に十分役立てられるような校内研究会の在り方を考えていかなければならない。全ての教職員の意見が反映されるよう、ワークショップ形式の事後研究会は有効であると考え。
126	子どもが意欲的に取り組む課題や活動を設定し、言語活動の工夫をすれば、すすんで考えを伝え合う子どもが育つであろう。	研究主任が十分に計画性をもって、校内研究に望むこと。
127	課題を追求する過程において、その解決の手助けとなる板書の工夫をすれば、子どもの意欲を持続でき、聴く力を高める授業が構築できるであろう。	研究内容について、全職員で十分意思統一し、共通理解のもとに研究を進める。
128	子どもたちに興味・関心を抱くような教材に出会わせることで課題意識をもたせ、つくる場において、語彙力をつけたり、書き方の工夫をしたりして書く活動を充実させれば、書く楽しさを味わい、自分の思いや考えを表現する力が育成されるであろう。	校内研究に関する学年間の互見授業をする等授業力向上を目指し意見交換する。
129	ねらいにせまる発問構成をし、意見の違いがわかる板書を工夫すれば、自分の考えを広げたり深めたりする子どもに育つであろう。	研修部会や学年部会等の部会を活用する。研修目的・意義をはっきりさせる。
130	人の思いと自分の思いを繋げて聞かせ、自分の意見を出し合わせる場の設定をすれば、思いや考えを進んで伝えることができる子どもが育つであろう。	具体的な実践例(効果的・効率的な校内研究をしている学校での)を事例研として、主任会等で協議し、よりよい方法を全体で考える。
131	思いや考えを伝え合う場において、書く活動を効果的に取り入れ表現する場を工夫すれば、自分の思いや考えを表現できる子どもが育つであろう。	

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
132	自分の考えを表現したり、伝え合ったりする場において、子どもが主体的に取り組む言語活動を工夫すれば確かな言葉の力が育つであろう。	ワークショップ型の研修を取り入れ、活性化を図る。
133	音読を積極的に取り入れた学習を積み重ねるとともに、自分の考えを持たせる支援や、お互いの考えを交流する場を工夫すれば、子どもたちは自信を持って自分の思いを伝え合うことができるであろう。	研究内容を共通理解し、日常の授業の中で実践していく。検証授業の成果と課題を次の授業に生かした取組をする。PDCAサイクルによるマネジメント。
134	さまざまな思いや考えにふれ、自己を見つめたり、自他の思いを大切にしたりする場や指導方法を工夫すれば、自分の力を生かそうとする子どもを育てることができるであろう。	
135	「課題をつかむ」「自分の考えを持つ」「伝え合い高め合う」を取り入れた学習過程を工夫すれば、自分の思いや考えを伝え合う子どもが育つであろう。	校内研究の在り方について模索している段階である。研究仮説が具体的にできていけば、何を検証するのかが分かり、効果的に研究が進むのではないかと考えている。個々の考えを導き出し、焦点化できるワークショップ的な技法があればよい。
136	課題に対して、自分の考えを持つための活動を保障し、伝え合う場を工夫した算数的活動を仕組み、考えを意欲的に伝え合い、学び合う子どもが育つであろう。	
137	つけたい力を明確にし、ねらいに応じた言語活動を工夫して、学習過程に取り入れれば、子どもたちは、自分の考えを深めるであろう。	
138	子ども一人ひとりが自分の考えを持ち、話したい、聞きたいという意欲を喚起することのできる課題を吟味し、目的意識を明確にした話し合う活動を仕組み、深めるための工夫をすれば、自ら伝え合い、学びあう力が育つであろう。	
139	興味を持って意欲的に取り組める場を設定し、学年に応じた話す力・聞く力をつけるための工夫をすれば、自ら学び、進んで表現しようとする子が育つであろう。	
140	子どもが意欲を持って論理的に考えたいような課題を設定し、互いの考えを交流する言語活動を取り入れれば、論理的に考え、論理的に表現する子どもが育つであろう。	
141	子どもの中に既習事項とのつながりが見える教材の提示の仕方や、問題把握、収束場面などでの視覚化と操作活動を工夫すれば、対話場面が活性化され、主体的に学び合う力がつくであろう。	
142	単元で必要となる既習内容の理解と定着を確実にし、それを「考える材料」として用いる必要性を生む課題を設定したり、新たな「考える材料」を生み出す活動を仕組み、視覚化などでとらえやすくしたりすれば、子どもたちは自ら考えを持ち、表現し合い、生き粋(生き)と学び合うことができるであろう。	研究の焦点化 事後研で全員発言(日頃からの関係づくり)
143	発表・練り合いの場において、自分と他との考えを比べ、見直す練り合いの学習活動の工夫をすれば、進んで課題を追求し意欲的に取り組む子どもが育つであろう。	ICT活用の授業
144	伝え合う力の技能を高めながら、子ども一人一人が自信をもつ学習活動の工夫をすれば、互いに伝え合い認め合い、つながりを深める子どもが育つであろう。	
145	一人一人に目が届く小規模校の特徴を生かし、9年間を見通した子どもの学習に関する課題を詳しく把握するとともに、発達段階と系統性を重視した指導法の工夫改善を行えばコミュニケーション能力が育つであろう。	
146	数や演算に関する問題解決場面において、デジタル教材を活用した学習を工夫していけば、数やその関係を図や式に表す力が高まるであろう。	私たち教師が、ICTを活用した授業を日常的にできるようになることが大切ではないか。
147	「話す・聞く」力を伸ばすための学習や活動を日常的に取り入れ、伝え合うための場や内容を工夫すれば、意欲的に考え、豊かに表現できるようになるであろう。	日常実践にフィードバックでき、子どもも教師も力を伸ばすことのできる研究に。「(「使える」研究紀要を目指す)簡易型指導案で事前研の大幅短縮。ワークショップ型校内研修で、全員参加・全員発言の事後研にしていく。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
148	友だちとつながりあうことができる課題を設定し、お互いの思いや考えを伝え合い、学び合い、認め合う指導の場を工夫すれば、自尊感情を高め、お互いの良さを学び合い、認め合い、支え合うことのできる集団(ともにのびる子ども達)を育成することができるであろう。	研究部会を必要に応じて開き、研究主任の提案を補足・修正してもらい、全体提案を行うようにしている。部会で決まったことや研究の方向性について学校研究だよりを発行。
149	小中学校の9年間で、前期(4年)・中期(3年)・後期(2年)毎の系統だてた教育課程を実践し、子どもの実態や各期の発達の段階に応じて各教科等の特長を生かした伝え合い学び合う言語活動を取り入れた授業を行えば、心豊かで共に生きる力を身に付けた子どもが育つであろう	子どもの実態や課題に基づいた主題を設定し、育てたい子ども像を明確化するとともに、そのための方法を共通理解し、全職員で取り組む必要がある。そのためには、十分な研修の時間の確保が必要になる。
150	話し合う活動において、話し方や聞き方、話し合い方のルールを身につけ、自分の考えと相手の考えの違いがわかるための手立てを工夫すれば、意欲的に話し、興味を持って聞くことができるであろう。	
151	子ども理解の上に立ち、焦点化、視覚化、共有化の視点を明らかにした学習活動を行えば、子どもが「わかる」「楽しい」を実感するであろう。	研究主任が道筋をはっきりさせて提示して、それにそってやっていくのが時間の確保につながる。
152	子どもが意欲的に取り組める学習課題を設定し、考えを交流する場を工夫すれば、伝え合う力が育つであろう。	推進力のある人が研究主任になることと、優れた指導者の存在が必要だと考える。
153	日常的な認め合い活動を基盤とし、学習指導の場において、相手を意識した伝え合い活動を取り入れ、教師の出番を工夫すれば、互いに認め合い学び合う集団が育つであろう。	
154	1つの教材を実践するにあたり、入口の問い(興味・関心を生ませる問い)と出口の問い(出口の望ましい子どもの姿に結びつく問い)を指定し、その2つの問いを結びつける活動の節目となる問いを指定して学習プランを組み、多様な情報や気づきを共有する協同的な学びの場を工夫すれば、子どもの問題意識のつながりを大切に学習を行うことができるであろう。	子どもの意識の変遷分析シートを活用し、提案授業当日までの子どもの意識の流れを、教師の指導・支援と関連付けて分析し、成果と課題を生産する。
155	考えようとする意欲を持たせる課題を明示し、それぞれの考えを交流する場を工夫すれば、仲間とかかわりながら学ぶよる喜びを感じ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる子どもが育つであろう。	効率的な校内研を進めていく上で、グループ別協議は有効であると思う。研究したことを日常の教育実践につないでいきたい。
156	体験活動と結びついた資料をもとにした授業の中で、互いの思いや考えを深め合い道徳的価値につなぐための話し合い活動を工夫していけば、子ども一人一人が価値の自覚を深め、道徳実践力を高めることができるであろう。	
157	自分及びチームに応じたためあてをもたせ、自分の力を高める工夫・チームの力を高める工夫をすれば、意欲的に運動に親しみ動きを高めることができるであろう。	個人研修と全体研につながりが表れるとよい。
158	「問いを深め、よりよい考えを創り出す楽しさ」を味わう算数的活動を取り入れ、教師の出番を工夫すれば、自ら進んで追求し、学び合う楽しさを味わうことができるであろう。	本年度は、県小算研指定の研究会で全員授業をするので、先生方全員が意欲的に参加している。
159	ねらいに迫ることができるような課題を設定し、考えの違いに気付かせ、意見を交流しあう場を効果的に仕組みば、お互いに考えを認め合い、高め合う〇〇っ子が育つであろう。	
160	捜査活動を多く取り入れながら、子どもたち一人ひとりが自分の考えを持つための時間を保障するとともに、発表のさせ方や発問の工夫をしていけば、生き生きと学び合うことができるであろう。	
161	道徳の時間と体験活動を関連させたそれぞれの場で、本音に迫るような手立てをもとに子どもたちの心を、揺り動かしていけば、周りの人や集団とよりよくなかかわろうとする意欲を持つようになるであろう。	学校として、研究仮説をもとに、低、中、高などで提案授業を行い、仮説の検証をしていくことも大事だと思うが、自分の学級の子ども達のために教師一人ひとりが取り組む研究として、学年研や個人研中心に互見授業を行いながら、各自の課題について取り組む方が、直接自分の学級に関係してくるので、意欲をもって取り組めるのではないかとと思う。
162	日常的に友だちとの関わり合いを大切に活動をし、相手の考えを受け入れ、自分の思いや考えと比較しながら相手に伝える表現方法や振り返りの場を工夫すれば、互いに認め合い学び合う集団をつくることができるであろう。	全員の考えが反映される研究にするためには、付箋を利用したり、グループに分かれ協議することが必要であろう。そうすることで効率よく進めることができるだろう。
163	自分なりの考えを持たせる工夫をすれば、子どもが主体的に考えを持ち発表したり、意欲的に話し合ったりすることができるであろう。	事前研・事後研と焦点を絞って話し合うように努力している。
164	基礎的な知識や技能を身につけるとともに、国語科の授業において、書く力を高めるための学習過程における支援、書いたものの交流の仕方についての工夫をしていけば、自分の考えをわかりやすく書いたり、広げたりする力を育成することができるであろう。	各部会ごとの提案やまとめをもとに、全体で話し合うことで効率的な研究ができる。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
165	各教科の学習過程において、子どもの考える力や表現する力を伸ばすための効果的な「書く」活動のしくみや支援のあり方を工夫すれば、自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもが育成できるであろう。	
166	問題解決の場で、ひとりひとりに考えを持たせ、ともに学び合う喜びを味わわせることができれば、主体的に課題を解決していこうとする子を育てることができるであろう。	時間が限られているため、協議の視点(主に仮説検証について)を絞って話し合いをしている。
167	自分の考えを書いたり、話したりする活動の場を設け、友だちの考えや思いのちがいを明らかにする工夫をすれば、子ども一人ひとりが自分の考えを深め、共に学びあう子どもが育つであろう。	
168	算数科において、基礎基本の定着を図る取り組みを土台とし、考える力をつけるための指導法の工夫をしたり、個人カルテを生かした個に応じた支援の在り方を具体的に工夫したり、また、家庭との連携をとる工夫をしたりしていけば、一人ひとりに確かな学びを育てていけるであろう。	
169	〇〇〇のよさが実感できる地域素材を取り上げ、一人ひとりが課題を見つけ意欲的に活動するための体験的な場を設定するとともに、学習過程における指導・支援を工夫すれば、自ら学び自ら表現できる子どもが育つであろう。	
170	国語科の学習において、読む活動や書く活動を効果的に取り入れ、お互いの考えを伝え合う場を工夫すれば、言語活動が活性化され、互いの良さをわかり合い、伝え合う子どもが育つであろう。	少人数の職場なので、全員で意見を出し合って話し合いができる。
171	算数科授業において、一人ひとりが考えをもつ場をしくみ、互いの関わりを大切にできる場を工夫すれば、自分の考えを持ち表現しあう子どもが育つであろう。	
172	教師がねらいを明確にした上で、子どもたちが運動のポイントをしっかりとらえ、確かなめあてや作戦を持ち、仲間と関わり合う活動をする中で、運動の技能を高める教師の指導があれば仲間とともに運動の楽しさを味わいながら運動技能を高めることができるであろう。	
173	算数科の授業を通して、課題解決への意欲を高め、学びの道筋(課題解決への見通し)に応じた支援のあり方を工夫するとともに、学びあい、深めあう場を工夫すれば、自分の考えをもち、主体的に学び続ける子どもが育つであろう。	
174	課題(発問)に対する自分なりの考えとその根拠を叙述等から一人ひとりに持たせ、それを表記(書く・傍線等)させて出し合わせることで個々の考えを明確にし、そこから考えの広がりや深まりを促すような発問・指示等伝え合いの場を工夫していけば、自分の考えを持ち、伝え合うことのできる子どもが育つであろう。	
175	算数科の学習において、①子どもが意欲的に取り組む学習活動の場を設定し、②考えを出し合うための工夫をすれば、主体的に学習に参加し自ら表現する子どもが育つであろう。	
176	国語科において①教科のねらいに迫る「課題」と「深める問い」を思考の流れにそって仕組み②子どもの実態をふまえ、一人一人がその子なりの考えをもてるような教材文の読みとり方を工夫し、③自他の考えを整理したり、互いの考えのよさを確かめあつたりするための伝え合いの場の工夫をしていけば、自分の考えを持ち、伝え合いながら、教科のねらいに迫る響き合う授業が創造できるであろう。	短時間で、何について話し合うのか等、柱を明確にして進めていく必要がある。前もって校内委員会を開き、意見を集約することも効果的だと思う。
177	人権学習において課題につなぐための導入を工夫し、多様な考えを出し合い、認め合う場を仕組み、実践への意欲付けとなる終末の工夫をすれば、自分の思いを表現し、友だちの思いを認め合うことのできる子どもが育つであろう。	今は授業の事前研を2回と事後研を1回の3サイクルで行っているが、2サイクルとしたり、事後研をKJ法などを利用し、効率的に行っていきたい。
178	国語科において(1)「聞く」ための場を設定し、(2)「聞く」ための手だてを工夫し、(3)「話す」こと、「書く」ことの学習と組み合わせれば、伝え合う力を育てていけるであろう。	限られた時間の中で、どのように研究を進めていくか。→推進委員会やグループ別協議、全体会をうまく組み合わせたい。
179	算数科の考えを持たせる場において「考える足場」づくり(既習事項のふり返りや具体物での支援)を行い、さらに考えを書き表すためのワークシートやノート等の工夫を行えば、自分の考えをもちそれをわかりやすく表現する子どもが育つであろう。	校内研修は個々の教師の指導力の向上だけでなく、組織としての授業力の向上も求められている。そのためには、明確な目標設定をし、手段・方法を共通理解し、全教師が計画的・組織的に取り組む必要がある。
180	互いの考えと根拠の異同をとらえて、自分の考えを伝え合う場を設定し、「かかわり合う姿」を明確にして支援していけば、「かかわり合う力」が培われ、一人ひとりの考えを生かしながら、高め合う子どもが育つであろう。	なるべく資料等を早めに配り、内容把握の時間短縮に努めている。少人数なので、全体協議の形をとって、不都合は感じないが、付箋などでの出し合いも試みたいと思った。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
181	①<頭のえいよう>算数科の授業を中心にして、解決の見通しを持たせる手だてを工夫したり、子どもが達成感を持てるノート指導やグループ学習等を組んだりすれば、学習意欲が喚起され、生き生きと学ぶ子どもが育つであろう。 ②<体のえいよう><心のえいよう>学校・家庭・地域が連携して職の大切さを学ぶことで、自らより良く育とうとする姿勢や、人や物への感謝の気持ちが育つであろう。	協議後のまとめを研究主任が、うまく次の研修の方向として提示できれば、研究は積み上がっていくと思う。先見が必要。
182	問題解決の学習過程において、自分の考えを持つ方法を工夫し、「書く話す場」を位置づけ、考えをまとめたり、伝えたりする手立てを講じていけば、学習意欲を持ち自ら学ぼうとする子どもが育つであろう。	
183	算数科の学習において、課題追求の場面で、子どもどうしの学び合いの姿を生み出す工夫をしていけば、ひとり一人が考えをもち、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。	じっくり協議できるためには、ゆとりを持って研修ができる環境が必要。
184	仮説1 学習活動の中で、一人ひとりに自分なりの思いや考えを持たせる場を設定すれば、自分の思いや考えを進んで表現しようとする態度が育つのではないかと。仮説2 自分の思いを表現できる場を保障すれば、自分の思いや考えが仲間に理解されることで自分もまわりを理解しようとし、聴き合い、学び合う態度が育つのではないかと。	感想、意見が多く出されるよう、SWOT分析の手法を取り入れた。
185		互見授業後の協議は、「30分間」と短時間で進めると意見が活発に出る。
186	子どもにとって必然性のある課題を設定し、課題にせまる発問を工夫するとともに、子ども一人一人が考えてまとめる手立てを講じれば、子どもは、自分の考えをもち、意欲的に伝え合うようになるであろう。	研究担当のリーダーシップが必要。
187	言語活動の場において、考えの理由やその足場となる根拠を引き出す手だてを明確にし、効果的に伝える表現方法を身につかせれば、自信を持って自分の考えを相手に伝えることができる児童・生徒が育つであろう。	教員全員が足並みをそろえて取り組むことだと思う。
188	各教科・総合的な時間・生活科において、児童生徒につけたい「学びの力」を分析し、小規模小中併設校の特色を生かし指導・支援を工夫していけば、児童生徒に思考力や表現力などの基礎基本の力を培うことができるであろう。	授業の中の児童生徒の様子と教師の指導・支援の在り方を、授業事実に沿って分析し、日々の実践に互いに活かしていこうとする姿勢。
189	多くのコミュニケーションがとれるような題材や課題を設定し、子ども一人ひとりが活躍できるような学習過程や学習の手立てなどの場を工夫すれば、自分の思いや考えを進んで表現し、伝え合い、認め合う子どもが育つであろう。	児童の実態、教職員の願いや考えから逸脱しない内容と進め方に留意している。
190	国語科の授業において、児童の考えが再構築されるような発問や書く活動、発表の場工夫すれば、主眼に迫りより深く読み取ることのできる子どもが育つであろう。	研究内容を絞り込む。 共通理解を図るべく、担当がリードする。
191	自ら目標を定め、何をどのように学ぶかという意識を持たせるために、適切な評価・支援を取り入れた学習方法・段階を仕組めば、子どもは意欲的に学習に取り組むであろう。	
192	算数科学習において、子どもの思考に沿った学習過程や個に応じた算数的活動を工夫し、伝え合う場やその形態を効果的に仕組めば、意欲的に取り組み、豊かに表現し、学び合う子どもが育つであろう。	部会組織を作り教職員一人ひとりが研究内容の柱となる部分に責任をもつこと、分担して研修し、全体に広げること。
193	国語科の授業において、自分の考えを出し合う場面や練り合う場面を工夫すれば、主体的に表現する子どもが育つであろう。	研修の時間が職員会議等に回されないよう時間の確保をする。全員の参加意欲を高めたり、みんなの意見を集約するために、ワークショップ型の研修方法を活用する。研究主任だけでなく、他の人にも何かしらの役割を担ってもらう。
194	多様な考えを引き出すことができる教材選択や場の工夫をし、自信をもって発信できるように支援をしていけば、伝えたい表現したいという気持ちを持ち、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。	研究の焦点化をし、継続して取り組んでいく。
195	算数科において、その時間につけたい力を明確にし、ねらいに応じた板書(ノート)を考え、練習の時間まで確保すれば、整理して考え、確かな学力を身につけた子どもが育つであろう。	
196	読書への関心を高め、すすんで取り組めるような読書活動を計画的・継続的に行うとともに、学校図書館を活用した授業開発を図り、自分の思いや考えを伝え合う場を工夫すれば、本に親しみ、生き生きと学ぶ子どもが育つであろう。	時間の短縮と共通理解の効率化を図るため、毎回研究内容のレジュメを用意し、前回研修したことの確認を必ず行う。しかし、校内研究ではライブ性、子どもや現場の課題に即した臨場感も大切にしたいと考えている。効率化と反するが、時間をかけてでも一つ一つ実践を地道に積み重ねていくことが最終的には近道になると考えている。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
197	国語科において、読解を深めるための学習過程や学習活動を工夫すれば、内容を正確に理解し、内容を深く読み取り、様々な視点から考える力が身についた子どもが育つであろう。	
198	各教科等において聞くこと、話すことのスキルを身につかせ、活用する場を設定すれば、生き生きと話し、最後までしっかり聞ける子どもに育つであろう。	テーマや課題を絞り込む必要がある。 担当者の専門性とリーダーシップが効果的に研究を進めるポイント。
199	算数科において、子どもの興味・関心を大切に、子どもが自己達成感を持てる学習指導を工夫すれば、「意欲的に学習に取り組む力」を高めることができるであろう。	ワークショップや少人数のグループでの話し合い等を取り入れ、誰もが意欲的に参加できる工夫をしようと考えている。
200	学年それぞれと子ども一人ひとりの課題を明確にし、学年と個に応じた指導方法を工夫すれば、子どもの学習意欲が高まり、確かな学力が身につくであろう。	
201	発表の場において自分なりの考えを持たせ、考えを伝え合う場を工夫することで、自らの考えを分かりやすく伝え合う子どもが育つであろう。	
202	様々な学習活動において、「書く」活動を取り入れた学習過程を工夫し、一人ひとりの実態に応じた指導を継続して取り組み、基礎・基本の定着が図れるであろう。	限られた時間の中での内容の明確化。 全教職員による共通理解。 研究主題の具体化。
203		職員数が多いのでチームに分け、研究主題に沿いながらそれぞれ別の教科領域の研究を行っている。一人ひとりが主体的に関わり、効率的な研修になっている。
204	課題を明確にし、自分の考えを持つための活動を保障し、伝え合い、認め合う場の工夫をすれば、わかる授業・楽しい授業が展開され、意欲的に学びあう子どもが育つであろう。	最近研修(特に授業研)の中で、KJ法などの手法を取り入れて、全ての教職員が意見をもち、それを言える体制をとっている学校が増えてきていると聞く。本校の課題にもあるように、いろいろな意見や考えが出されることで、それぞれの教員がもつ課題や学校の課題に迫る研修ができるのではないかと考える。
205	国語科・算数科の授業において、日常的にICTを活用し、学習形態を工夫した指導をして、1時間完結型の授業を行えば、子どもが意欲的・主体的に取り組むようになり、確かな学力が身につくであろう。	
206	算数科において、めあてをとらえ、自分の考えを表すための方法を工夫し、出し合う場につなげることで、主題に迫ることができるであろう。	研修の効果を上げるためには、研究組織を見直す必要があると思う。 提案授業を全体ではなく、グループ別にする時間の確保ができる。また、少人数になるので、意見交換がしやすくなる。
207	「1時間完結型」の授業において、①既習事項や具体物、図表を使って考える場の設定をし、②自己肯定感が育つような発表のさせ方や聞き方、学びあいの学習のあり方を工夫すれば、「ことば」を使って考えたり伝え合ったりできるようになり、よりよい判断のできる子どもに育つであろう。	
208	算数的活動の時間を十分保障し自分の立場をはっきりさせた上で、具体的操作を通した説明ができる手立ての工夫をすれば、自分の考えを伝え合う子どもが育つであろう。	研修資料が充実していること。 誰もが何でも言える雰囲気であること。
209	課題を引き受けられるような算数的活動を取り入れ、子どもたちが、それぞれの活動内容をお互いに伝え合える場を設定し、表現に必要な言語活動の充実を図れば、自らすすんで問題を解決しようとする子どもが育つであろう。	子どもの実態を把握した上で、教科研究だけではなく、「分かった」「できた」という喜びの声や響く授業実践のために、特別支援教育研修や人権教育研修の積み上げが必要であると思う。あらゆる角度から、様々な立場でものを言える校内研究の雰囲気作りをすることも大事なことであると考える。
210	子どもの心を揺さぶる題材を選定し、学習過程に「練り合う場」を効果的に設定するとともに、適切な支援と評価活動を工夫していけば、子どもは自分の言葉で豊かに表現するようになるであろう。	全職員で子どもを育てようという意識をもつ場を設定することが大切。 SWOT分析や戦略マップ作りも有効であるが、時間確保が困難であるので休業中に実施している。
211	課題に対して自分の考えを持たせ、表現する活動を工夫すれば、互いの考えの違いやよさがわかり、主体的・意欲的に伝え合い学び合う子どもが育つであろう。	まずは実践。互いに授業を見合い、高め合うことが大切。
212	一人ひとりに自分の考えを持たせ、聴き合い学び合う活動を工夫すれば、友だちと共に考えを深める子どもが育つであろう。	昨年度は指導案審議を提案授業前に2回行っていたが、今年度は1回のみ行うようにした。事後研究では、仮説の検証やよりよい指導法の在り方についての意見交換に重点を置き、日々の授業に生かせるようにしている。 参加体験型ワークショップ研修なども取り入れていく。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
213	自分の食生活の実態を意識させ、課題を解決する学習の中で、体験的な活動や栄養教諭の専門性を生かした学習活動を行い、学びを交流し発信する場を仕組んで行けば、自己決定を促し、自分の健康を考え、心豊かに生活を送ろうとする子どもが育つであろう。	組織マネジメントの手法、ワークショップ型研究協議を取り入れることで、参画意識を高め、組織力をいかした研究を推進している。
214	算数科において、考えを持たせる手立てから意見交流の場の工夫・改善をしていけば、自分の考えを進んで表現し、お互いに高め合おうとする子どもが育つであろう。	授業を見合う、授業について考えを出し合える環境を、みんなでつくっていかないといけないと思う。
215	課題を明確にし、自分の考えを持つための活動を効果的に仕組み伝え合う場の工夫をしてまとめに導けば、わかる授業が展開され意欲的に学び合う子どもが育つであろう。	
216	①各単元の基礎基本を明確にし、個に応じた効果的な指導を工夫すれば学ぶ意欲が高まり、基礎基本の定着を図ることができるであろう。 ②児童一人ひとりの考えを尊重し、互いに考えを練り上げれば、一人ひとりの学びが深まるであろう。	
217	学習や生活のあらゆる場で感性をゆきぶり集団の中で一人ひとりに自信をもてるようにしたり、関わりが持てる活動を工夫・改善したりすれば、認め合い、支え合い、高め合う児童が育つであろう。	
218	各教科領域において、小中9年間の言語に関する能力の系統性や児童生徒の発達段階をもとに、身につけさせてい力を明確にし、事象や文章、資料から筋道を立てて考え、考えたことを表現する言語活動や互いの思いや考えを伝え合う言語活動を充実させれば、思考力・判断力・表現力を育むことができるであろう。	
219	読み取ったことを出し合う場面において、子どもの考えを明確にした意見を出し合わせ、相互に疑問や課題を解決するための発問や、話し合いのさせ方を工夫すれば、自分の思いや考えを伝え合う子どもが育つであろう。	研究主任の事前学習と早めの提案、そして、他の教員との連携が大切だと思われる。
220	算数科の学習において、一人ひとりの実態に応じた考える力を育成する場を設定し、考えの手がかりとなる算数的活動を重視していけば、考える力を身につけていくことができるであろう。	提案を簡潔に行う。時間内に結論を出す。 提案授業の案審議は、提案者の意向を最大限尊重する方向で行う。
221	算数科において、考えをもてない子の支援の在り方を工夫したり、話し合い、活動の場の設定を行うことにより、一人ひとりが自分の考えを持つことができ、意欲的に表現することができるであろう。	
222	算数科において、1時間の授業のねらいを明確にし、一人ひとりの児童に、できた実感を持たせていく完結型の授業をしていけば、基礎基本の確実な習得が図れるであろう。	授業実践に生かせる研究を進めたい。
223	〇〇幼・小一貫教育の特色を生かし、体験活動や児童会活動の場において、自らの目標に向かって計画を立て実現していく学習過程を組み、評価を工夫すれば、他者とのコミュニケーションを取りながら、自ら学び、判断し、自己実現をする園児・児童が育つであろう。	研究仮説を明確にし、研究授業の視点を絞ることで、成果を上げることができる。
224	課題を明確にし、子ども一人ひとりが自分なりの考えを持つための活動を保障し、考えを表現できる場の工夫をすれば、主体的に学習を進めながら、学び合える子どもが育つであろう。	特になし
225	1時間完結型の授業の中で理解されやすい目当ての工夫や個に応じた支援を行い、さらに、理解の定着を図るためのスキルの充実、自然に身に付く学習環境づくりの工夫や教え合い活動を取り入れていけば、意欲的に取り組むことができ、基礎基本の学力が身に付いていくと思われる。	
226	算数科において、児童が興味を持ちやすい問題を設定し、題意の読み取りのため、問題から必要な情報を見つけ出し図や絵を描いたりする「かく活動」を工夫すれば、一人ひとりが自分の考えを持ち、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。	特にありません。
227	考える楽しさを味わうことができるために、以下の研究視点に沿って実践研究をすれば、主題にせまることができるであろう。(1)子どもの考えを意欲もてる課題の工夫。(2)自分の考えをもてるような手立てを身につけさせる。(3)子どもの間や気づきを引き出すような教材や算数的活動の工夫。(4)自分の考えと他の考えを比較し、検討する力を身につけさせる。	1つの研究に関わって、いろいろな意見が自由に出し合える。提案を基に個々が実践を積み上げたい。
228	相手の良さを認める集会活動、自己発揮できる体験活動(縦割り班)を積極的に取り入れたり、様々な見方・考え方を育てる学習を通し、自己表現力や非攻撃的自己主張の力を高めていけば、自他を大切に子どもが育つであろう。	

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
229	発達段階に応じた学習ルールや指導の仕方を共通理解し、きめ細かい指導をすれば、確かな学力を身につけ、生き生きと活動する子どもが育つであろう。 ICT機器の積極的な活用、練り合いの場の工夫や板書と運動したノート指導をすれば、確かな学力を身につけ、生き生きと活動する子どもが育つであろう。	小さい学校なので、研究主任が即提案することになっているが、校内研究で提案する内容を事前講義する場があるとよい。授業研究では、事前研に時間をかけず、事後に時間をかけ、日常の授業実践ですぐ活用できるような授業研にしたい。
230	教科学習での課題追究場面において、地域や家庭と連携した学校支援ボランティアの支援を生かし、学習形態の工夫や個に応じた評価を適切にした目当て達成型授業を行えば、一人ひとりの学習意欲を高めることができ、自らの思いや考えを意欲的に表現しながら、積極的に学習に取り組む子どもが育つであろう。	
231	授業の見直しを持たせ、自力解決のための考える時間と発表する場を確保すれば、達成感を味わえる算数科の学習になるだろう。	学校課題、研究主題、研究仮説の検証を、日常実践と連動させ、常に課題への立ち返りを怠らない。
232	算数科においてジグソー法による「協調学習」を取り入れ、思いや考えを伝え合い、学び合う学習活動を工夫すれば、学ぶ喜びを感じ、意欲的に学習する子どもが育つであろう。	
233	国語科・説明的文章において「読む力」を高める工夫を通して、生き生きと伝え合える子どもを育てるために、 ①学習意欲が高まる言語活動をする ②自分の考えをもてる場を設定する ③評価の指導のつなぎ方の工夫をする ④伝え合うスキルの指導をする	限られた時間を有効に使うために、レジュメの事前配布を行う。 研究や授業について、目標設定を明瞭にする。目標に具体性をもたせる。目標について自分の言葉で、みんなで語り合う。事後研究会をワークショップ型にする等工夫する。
234	数、式、図、表、グラフなど様々な表現方法を課題解決手段として、言語活動に関連付け説明する等の算数的活動を行うことによって、伝えやすく受け取りやすい自分の考えを持たせることができれば、お互いの考えをやり取りし課題解決ができるような子どもに近づくであろう。	本校は単学級のため、学年部での研究協議を取り入れながら研究を進めている。
235	国語科を中心として、次のような手立てを取り入れた授業づくりや教育活動を進めていくことにより、国語力を身につけた児童を育てることができるであろう。 (1) 説明文における確かな「読み取り」をするための指導方法を工夫していく。 (2) 国語力をつけるための日常活動の工夫をしていく。	学年部別、テーマ別等チーム体制を組む。そこで協議されたことを全体に出し、共通理解する。 校内研究と職員会議が同日に組まれることがあるため、(校内研の)時間の確保が難しい。
236	算数科において、自分の考えを分かりやすく説明する指導法の工夫をしたり、個に応じた支援をするための実態把握や支援計画にあり方を工夫していけば、自ら考え豊かに表現しながら、学び合う子どもが育つであろう。	指導案審議や学年部会、授業研究の時間を確保し、一人ひとりが課題追求のための参考資料の提案ができるとよい。また、それぞれに負担を振り分けることも1つの方法。
237	栄養教諭と連携した食に関する授業の展開や給食指導を工夫したり、地域の人と関わることでできる野菜作り、米作り、調理、調査活動などの体験活動をしたりすれば、食に関心を持ち、自分の健康を考えることのできる子どもが育つであろう。	事前研究前日までに指導案を配布し、事前に目を通しておく。研究授業中に主眼に対して・仮説に対しての意見を含めいくつかの柱に沿って、意見を付箋等に記入する。事後研究会では、それを使って全員の発言で深めていく。
238	租税教育の年間計画に沿って、系統的・継続的に学習を進めながら、学習したことを自分の身近な内容と照らし合わせながら考える場を設定すれば、よりよい集団の一員としての自覚が培われるであろう。	
239	命の大切さー自分の体を見つめること→生活のリズムを整えることという流れを柱に、学習や集会において、子どもの興味・関心のわく資料や教具等を工夫したり、体験的な活動を仕組んだりすれば、自分自身の体や健康問題、そして生活習慣に関心が深まり、健康づくりに意欲を持つであろう。	
240	生活や学習における子どもの意識や実態を適切に把握した上で、教科・道徳・特別活動を中心にあらゆる教育活動を通して、お互いのよさや違いを認め合う仲間づくりをすすめ、分かる喜びを味わえ自信につながる学習を展開すれば、自己肯定感の高い子どもが育つのではないかと。	本校は提案授業の事前研が1回のため、細かく審議していると本時についての審議が不十分なまま終わらざるを得ないことがよくある。本時中心の事前事後の審議をして、効果的に時間を活用するようになりたいと考えている。
241	活動のねらいを明確にし、子どもの運動実態に合ったため達成に向けた指導・支援のあり方や仲間を支えあう場を工夫すれば、生き生きと体育活動に取り組むであろう。	
242	伝え合いの意欲を高める題材や学習課題を設定し、ワークシートやメモを用いて自分の思いや考えをしっかりと持たせ、伝え合う場や方法を工夫すれば、思いや考えを伝え合う力を高めることができるであろう。	研究主任が研究に携わる時間を保障(確保)すること。そうすることにより、見直しをもった提案や職員の学習資料の提案ができる。研修の柱ごとに、グループをつくって研究を推進し、全体会を広めていく。
243	「話す・聞く」「読む」「書く」といった基礎基本の「つけたい言葉の力」を明確にした国語科学習を仕組み、豊かな言語能力を身につけるためのさまざまな活動を工夫すれば、全ての学習や生活の土台となる話し方・聞き方・読み方が身につけ、自ら意欲をもって学びより深く考える子どもが育つであろう。	
244	各教科や特別活動を通して、自分のからだに関心を持たせ、からだによいことを知らせたり、日常的に運動を経験させたりすれば、子どもたちは生活を見直すことができ、進んで体力づくりができるであろう。	普通の研修日では、時間の確保が難しいので、夏休み中に2回ほどゆっくり話し合う機会をもっている。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
245	子どもが興味・関心が持てる教材・教具の工夫をし、考えを伝え合う場の設定をすれば、自ら考えを持ち、進んで課題を解決しようとする子どもが育つであろう。	
246	自分の思いや考えを「つくり」「伝えあう」場や多様な発表の場を設定し、指導や支援のあり方を工夫すれば、確かな表現力を身につけ豊かに伝えあうことができるようになるであろう。	曖昧で何をしたいのか分かりにくい研究ではなく、明確で具体的な研究内容をきちんと共通理解して取り組む。
247	調べたいテーマを持たせ、図書館を活用した調べ学習の学習課程-「見つける」「調べる」「選択する」「まとめる」-を工夫すれば、意欲を持って調べることができる子どもが育つであろう。	学年部会、専門部会などを活用しながら効率的に努めていきたい。
248	少人数や全体の中で「話す 聞く 返す」活動を適切に仕組み、協力して課題を解決させていけば、子ども相互の学びあいが生まれ、ともに学ぼうとする子どもたちが育つであろう。	
249	国語科の学習過程において、「話す・聞く・返す」活動を有効に位置づけながら、考えを深めるための問いの工夫をしたり、思考の助けにつながる板書の工夫をしたりしていけば、自分の考えをもち、豊かに表現できる子どもが育つであろう。	
250	「聴くこと」を大切にしながら、一人ひとりに考えを持たせる場や考えを出し合う場の工夫をしていけば、生き生きと自分の思いを表現できる子どもが育つであろう。	
251	課題を受けとめ(つかみ)、小人数グループで話し合う・練りあう・表現する場を設定すれば、自ら考え、自身を持って表現できる子どもが育つであろう。	
252	多様な考えを保障する学習過程を工夫するとともに、学習課題追求のあり方をさぐっていけば、進んで課題に取り組み自分の考えを伝え合うことができる子どもが育つであろう。	限られた時間の中で効率的な校内研を実施するためには、校内研究推進者のリーダーシップと各教職員の個人研究の充実が課題である。
253		フリーカード法での授業討議は、短時間で、たくさんの意見が集約できるので、全員提案授業を複数回重ねることで、授業改善につながっている。
254		場合によっては、部会に分かれて指導案検討や事後研をする。付箋を利用した事後研は全員の意見を取り入れられて良い。指導主事やコーディネーターなどの人材を活用する。ビデオやICTなどの機器を活用する。
255	課題を追求していく過程で、子どもたちの考えを分類・整理したり、比較・検討したりする活動などを仕組み、互いに考えを交流し合う場を設定すれば、子どもたちは自分の考えを深めながら、主体的に取り組み、わかった・できるようになったという達成感をもつことができるであろう。	業務を精選し、校内研究の時間が確保できると、計画的に研究が進められる。
256	算数科授業における自分の考えを持ち、出し合い・友だちと伝え合う、話し合う場面において、どの子にも使える技を工夫し、説明の根拠となる表現を共有させれば、一人ひとりの表現力が養われる(1時間完結型)の授業となるであろう。	夏季休業中に各学年で「数と計算」「数量関係」領域の指導案作りを行い、個人で本時案を作成し、2学期以降授業実施予定。校内研究で必要なのはそれぞれがお客さんにならずに、積極的に取り組むことだと考えている。自分で実際に行ってみて初めて効果的な校内研究になると思う。
257	国語科の説明的文章の学習において、1時間の授業の中で「つかみ―出し合う―深める―まとめる―交流する」という学習パターンを組み、出し合う過程から深める過程で子どもどうしの伝え合いの場面が成立するような問いを工夫したり、少人数で伝え合う場を取り入れれば、意欲的に伝え合う姿が見られるであろう。	・長期休暇(夏休み・冬休み)を利用し、教材研究、指導案作成、審議を行い、時間確保をする。 ・事後研では、仮説に基づいた討議の柱を設定し、成果と課題に絞り込んで討議する。
258	算数科において、課題解決意欲を高めたり、多様な見方や考え方を引き出したりする算数的活動の工夫や学習を振り返ったり活動したりできるノート指導の工夫をすれば、根拠を明らかにして自分の考えを筋道だてて説明したり、互いに自分の考えを伝えあって話し合ったりすることを通して考える力、表現する力が育つであろう。	様々なことで研究の時間が十分に保障できていない。そうした現状から、教育センターなどで県内外で行われている研究授業の資料を収集し、HP上で見ることができるなどのサポートを充実してくれると、追試したり参考にしたりして効果性・効率性が期待できる。
259	仮説①:個の力に応じた目標を設定し、工夫した場や他者との関わりを計画的、継続的に確保すれば、進んで体力向上に取り組み、一歩上をめざす子どもに育つであろう。 仮説②:教科の特性に応じたつきたい力と既存の力を明確にし、自分なりの考えを持ち、表現する言語活動の場を工夫すれば、一歩上をめざす子どもに育つであろう。	時間は限られているので、できるだけ具体例を示し、焦点化して話し合うこと。
260	算数授業の展開場面において子どもの「問い」を引き出す算数的活動を効果的に位置づければ、子どもが考えをねり合い、分かる喜びを実感できる算数授業となるであろう。	研究仮説を共通理解し、日常の実践も踏まえて、全員が同じ土俵の上で研究協議ができるように、常に何について明らかにしようとしているのかポイントを絞って研究を行う。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
261	説明文教材の読み取りにおいて「つきたい力」を明確にしてそのよさを実感できる授業を意識的に組めば「つきたい力」を習得し、子ども自ら読み進めることができるのではないかと。	
262	算数科の学習において、「聴く」「考える」「表現する」場や「仲間づくり」の視点に立った支援の工夫をすれば、子どもたちがつなぎ合い、つながり合いながら、豊かに学ぶことができるであろう。	
263	説明的文章の読み取りにおいて子どもたちの思いや考えの立場を明らかにし、その立場について話し合う場を工夫すれば、言葉や文章とつながりながら、自分なりの表現で伝えようとするだろう。	
264	自分と友達の考え方のずれを問いに生かしていけば、自ら課題を持ち、自分の価値観を見直して主体的に学習に参加することになるであろう。	研究通信を発行して、進捗状況や研究に関する情報を流していくこと。
265	国語科の説明的文章の授業において、読み取ったことに対する自分の意見や感想をもたせたり、それを友だちと交流させたりする学習活動を工夫すれば、子どもは自分の読みを深めるとともに読む楽しさを味わうであろう。	
266	子どもたちの学習や生活の場において、9年間を見直し、〇〇小中学校の児童生徒の実態に適した指導方法と各教科の全体構想を探り、小中の良さを生かした体系的な指導を行っていけば、子どもたちは生き生きと学び、豊かに関わらうことができる態度が身につくであろう。	職員が共通理解をし、小学校と中学校が同じ方向性で進んでいくこと。
267	各教科や道徳・特別活動・総合的な学習の時間の場で、基礎・基本の定着を図るとともに、キャリア教育の視点を生かした学習過程を仕組み、学習活動を工夫していけば、主体的に学習に取り組もうとする子どもが育つであろう。	時間の確保ができるような学校体制づくり。 講師などをよべる予算の確保。 講師などの紹介・リスト作成。
268	算数科の学習において、「つかむー考えるー深めるー広げる」という学習過程を組み、既習を活かし、モデル等を活用できる授業を組めば、子どもたちはイメージ豊かに、見直しを持って学習に取り組み、問題を解決する喜びを感じながら、自らの考えを深め、堂々と表現できるであろう。	本校は少人数学校であり、日常の中で子ども達の実態について情報交換を欠かさず、授業の在り方等、職員間で常に交流している。研究会参加後も同様。
269	考えの根拠が確立できるひとり学習を保障し、根拠に基づいた考えを持たせ、友達と考えと比較検討する話し合いを展開していけば、一人ひとりの考えがより深まり、確かなものの方・考えを持つ子どもに育つであろう。	昨年に比べ教職員が減少し、グループ研を行う時、管理職や当該グループ以外の職員も参加してもらって、協議が成立している。
270	総合的な学習(生活科)や特別活動の時間に国語科やドリルの時間に習得した文章構成力や言語の力を基にして、相手・目的・意図の明確な文章を書くことに取り組んでいけば、自分の得た情報や思いを効果的に伝える文章を書くことができるようになるのではないだろうか。	雑務が多く、教師本来の仕事である教育内容や教育方法の研究に専念できない状況を改善する。
271	①学年の発達段階に応じた言語活動を仕組むことにより、多様な場面で読みの力につながる知識や技術を「吸収」させ、そこで得た力を「表出」させる場を計画的・継続的に設ければ、一人ひとりの意欲が高まり、確かな読みの力を育てることができるのではないかと。 ②物語文を読む領域において、単元の持つ価値を明確にし、多様な考えや思考のずれを生み出す課題を工夫し、次の読みにつながる(「読みの鍵」)をもとにして、互いの考えや思いを出し合わせれば、確かな読みの力が育つのではないかと。	
272		全員発言(特に授業後の研究協議では)
273	国語科説明文の学習の場面に適した(グループ構成・人数・目的・話し合い方など)ペア学習やグループ学習において、話し合いや活動の目的がはっきりした課題設定を行えば、自分の思いや考えが持ちやすくなり、自分の思いや考えを主体的に相手に伝え、お互いに学び合う子どもが育つであろう。	職員の人数が少ないので、研究会等では率直な意見を出しやすい。反面、意見の広がりが見られない時がある。限られた時間の中でポイントを絞った進め方をしていく必要がある。
274	「読むこと」の学習において、学習過程の中「書く」「話す」「交流する・まとめる」活動を位置づけ「手がかりになる言葉」に着目させながら読み取らせるとともに、基本形(話形・文型)をもとにして自分の言葉で伝える場を仕組み、自分の考えをもちそれを豊かに伝え合う子どもが育つであろう。	年間計画に沿った校内研究の実施。研究仮説の検証の日常化。各自の取組の交流及び検討。
275	国語科の学習において、単元学習の特性を生かし、ねらいを明確にして、思考し合う学習展開を工夫すれば、ことばを大切にしながら確かな読みの力を身につけるであろう。	研究仮説を十分検証するために、個々人に場の設定・手だて等がある程度要求し、授業間に継続性のある提案を心掛けてもらう。
276	説明的な文章において、読み取ったことに対する自分の考えを持たせたり、それを伝え合う活動を仕組み、書かれている事実や情報を正確に読み取り、表現するための言語力を身につけることができるであろう。	校内研究について職員の意欲は十分にあるが、教材についての互いの考えや意見を交換する時間の確保が年々難しくなっていると感じる。個人ごとの努力や研修も大切だが、授業に対する研修をより深めるために、教材研究や指導案づくりについての学校全体での時間をもっと確保したい。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
277	国語科の授業において、一人ひとりが自分の考えをしっかりと、わかりやすく伝えようとする指導過程を工夫し、様々な体験活動を仕組み、日常的な取り組みを充実させ言語活動を整えれば、「自ら学び、互いに高め合う子どもの育成」ができるであろう。	
278	国語科の説明的文章の授業において、習得した読みの力を使って自分の考えを書く場を設けたり、考えを出し合う場を設定すれば、子どもは互いの考えを伝え合い、深め合おうとするであろう。	
279	算数科学習において、一人ひとりに自分の考えをもたせるための算数的活動を工夫し、出された意見を比較・分類・関連づけさせるような「練り合いの場」を仕組みれば、主体的に練り合う子どもが育つであろう。	子どもの実態から出発し、個々の力が伸びていくような指導方法の改善等につながっていかなければならない。
280	算数科の授業において、学習を通して考える、あるいは考えたことを表現する、友だちに自分の考えを説明したりするという「言語活動」を充実させていけば、伝え合い学び合う子どもが育つだろう。	校内研究と日常実践をつないで、点から線、線から面へと発展的に拡大させる。
281	話し合いの場面において、課題にせまるためにそれぞれの考えの共通点や相違点などに気づかせる手だてをとり入れていけば、考えを表現しあい高めあおうとする子どもが育つであろう。	効果的・効率的をねらうなら、日常の授業に即、役立つ研究がいいと思う。普段の授業が一番多いわけだし、各自検証もしやすい。授業をしている職員がみんな発言できる。
282	自らの思いや考え・伝えたい事柄を話す場を授業や全校活動に設定し、表現の仕方を指導していけば、豊かに表現できるであろう。	
283	子どもの運動実態を把握し、個や集団にあった課題をもたせ、ゲーム的要素を含んだ運動の場を設定して、適切な評価をすれば、みんなが楽しく取り組む体育授業になるであろう。	
284	子どもたち一人ひとりが考えを持つ「場」において、既習事項・算数的活動・生活体験などをもとにして、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための表現ができるような個に応じた支援のあり方を工夫すれば、できるわかる喜びを味わい、楽しく学ぶ〇〇〇子が育つであろう。	模擬授業のような実践的な内容を多く取り入れていきたい。
285	「読書センター」「情報センター」としての図書館の各学年の発達段階に応じた利用方法を工夫し、説明的文章の読みで得た技能を活用させる活動を組めば、豊かな心を持ち、主体的に表現する子どもが育つであろう。	研究の内容が、日常の教育課題の解決に結びつき、実りある研究でありたい。
286	①国語科の説明的文章において、各学年の教材の習得内容(指導する読みの力)を明確にもち、習得内容の効果的な指導方法を工夫すれば、子どもは新たな力を身につけ主体的に文章を読み進めるようになるであろう。 ②読書・日記・スピーチ・話形等の言語活動を系統立てて日常的に指導していけば、主体的に話し、書く子どもが育つであろう。	職員が同じ研修に参加することで、共通理解を図ることができた。(夏季研修において)
287	複式授業を行うために必要な学習技術の内容を明らかにし、その身につけさせ方を工夫・徹底するとともに、複式学級や極小人数の単式授業における一時間完結型授業を仕組みれば、確かな読みの力を持つ子どもが育つであろう。	理論等の難しい研究ではなく、毎日の授業に即、生かせるものを研究すべき。
288	読み手の手立てを明確にして指導し、読み取ったことに対する自分の考えを、根拠を明らかにしながらまとめて文章に書き表す活動や、互いに考えを伝え合う活動を効果的に取り入れていけば、進んで表現できる力を育てることができるであろう。	
289	課題解決に向けた算数的活動を取り入れ、一人ひとりの考えを交流し合う場や定着を図る習熟の場を効果的に仕組みれば、楽しく学び合うことができ基礎基本が身につくであろう。	
290	学校生活における教育活動を通じて、児童の「話す」「聞く」活動を意図的・計画的・継続的に導入し、学習過程の工夫、場づくり、支援・評価すれば、自らの思いや考えを伝え合う力が育つであろう。	新年度になりメンバーも児童も新しくなった時点で、職員同士が児童の状況や本校の課題を明確にし、日々の授業や指導の目的と手立てを共通理解できる時間とプロセスをもてたら、実践は効果的・効率的になると思われる。また、全てを全体で行うのではなく、学年や学部会などの小グループを活用することもよい。
291	つたえ合う力を高めるための1時間完結型授業をめざし、授業のパターン化と板書とノートの一体化を行えば、基礎基本の定着が図られ、体力づくりに関する意識も高まるであろう。	日常の授業と校内研究が繋がっていなければならない。校内研究をすることにより、全教員の指導力の向上がもたらされなければならないと考える。
292	子どもが意欲をもって取り組める課題を提示し、子どもどうしが関わり合い、学び合える学習過程を工夫すれば、自ら考え、自ら学ぶ子どもが育つであろう。	研究課題を焦点化し、検証しやすい授業研究の内容で討議していく。

小学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
293	1単位時間内で、指導内容を焦点化・明確化し、時間配分と展開のし方を工夫することで、まとめと練習問題までを含めた授業を積み重ねれば、児童が「わかった」「できた」と実感でき、基礎基本の確実な定着が図られるであろう。	近年、職員で協議あるいは研修しなければならない事項が多岐に渡ってきており、協議に要する時間も増えてきている。効率的な会議運営が求められるが、校内研究においては、まず何よりも時間の確保＝計画的な実施が大切である。
294	地域の方々がもつ技や知恵・技術・生き方に学ぶ活動により、興味・関心・感動をもって学習し、書く活動を活かしながらまとめ、発信する取り組みをとおして自分の考えを深く見詰め、自分の地域や将来について考える子どもを育成することができるであろう。	ともすると短い時間でいかに効率的にするかという視点に陥ってしまいがちだが、本来的には校内研究は十分な時間と討議の場の確保が不可欠であるとする。
295	子どもが興味関心を持つような題材や学習活動を組織し、統計的探究プロセスを生かした学習過程での支援を工夫すれば、一人ひとりが意欲的に課題を探究し、いきいきと表現し合うであろう。	県や地教委などからの研修を減らし、学校や児童の実態に即した研修が十分にできるようにしてほしい。
296	学習意欲が高まる授業改善に取り組みれば、子どもは学ぶ楽しさを実感し、生き生きと学ぶことができるであろう。	グループ化をして、一人ひとりの教職員の発言の場を多くすることが、自覚を高め、全体のものとなると思われる。

※ (6)、(13)ともに記入のない小学校数 5校

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
1		学校全体で取り組もうとする時、管理職のリーダーシップが非常に大きく影響する。管理職に理解があり、学ぼうとする意欲をリーダーとして職員に見せていくことが、研究が進む大きな要因だと思う。
2	生徒たちが、学習活動の中でお互いを認めながら(自尊心を高める)、学び合う場作りを行えば、自ら学ぶ力がつき、集団の中で意欲的に学習する生徒が育つであろう。	「時間の設定・確保」という面から、全体会をベースにはするものの、教科会議や学年会議等、より意見の出やすい有意義な小グループにおける協議が必要と考える。
3	自分自身の体のことや、体を健康に保つ方法を知り、その知識を実践につなげていくことができれば、自分を支えていく土台としての「体力」を自ら向上していこうとする生徒が育つであろう。	生徒の実態を具体的につかみ、どのような生徒に育てたいのかを明確にした上で、「授業」の中でこそ生徒の学ぶ力は育ちゆくという認識を全教職員が共通理解し、具体的な提案、実践、検証を重ねていくことが、効果的・効率的な校内研究につながると考える。また、校内研究の内容、進捗状況等を公開することも効果的な研究につながると考える。
4	学習活動の中で、お互いを認め合うような場づくりを工夫し、生徒一人ひとりの活動が生き生きするような支援を行えば、生徒は成就感や達成感を味わう中で、自らが学ぶ力が身に付き、主体的に活動する意欲を育てることができるであろう。	長期休業中の研究・研修時間の集中確保(中学校現場は部活等で時間確保が困難)
5	授業の中で、生徒相互のやりとりを重視した活動(質の高い授業)を仕組むことにより、基礎・基本の定着が図られるとともに、生徒どうしが学びあいながら意欲的に学習することができると考えられる。	全員が一致してやれることをする。日常の実践に生かせることをする。
6	以下のことを意識して授業の工夫と改善を図れば、生徒の学習意欲を喚起し、自ら学ぼうとする生徒を育てることができるであろう。 ①授業・学習規律を意識した学びの場づくり②導入段階における明確な学習課題の提示③終末段階における「授業のまとめ」の設定⑤協同的な学習を取り入れた授業展開	
7	学習活動において授業規律を大切に、互いに考えや思いを出し合い理解しようとするれば、意欲的に学ぶ生徒が育つであろう。	大分県教育振興基本計画(重点目標)－〇〇市教育振興基本計画(重点目標)－〇〇中学校学校教育目標－校内研究テーマが機能的にリンクして取り組んでいるか、検証方法等、研修を受けられる機会があるかと思う。
8	教科指導及び学級経営において、対話を促進する学習形態を工夫し、少し高めめの目標や学習課題を設定する。その取組を通じて、達成感・成就感や自己の存在感、集団への所属感を味わわせることができれば、一人ひとりの居場所づくりにつながり自尊心が高まるとともに、表現力や思考力・判断力の向上が図れ、確かな学力をはぐくむことができるであろう。	
9	各学習の学習指導において、かかわり合いの場面で個を大切に学習を仕組めば主体的に考え、行動することができるであろう。	
10	体験学習を中心としたキャリア教育の取り組みを進めていく中で、「働くこと」への関心・意欲を高揚させ、自己と他者や社会との適切な関係を構築する力や自立意識を養うことができれば、自らの将来の目標に向かって日常的な学習への意欲を向上させることができ、未来を切り拓く、人間力の育成と学力向上につながるであろう。	研究推進に当たり、担当が明確な構想を持ち、より具体的な研究の方法・計画を示すこと。
11	生徒が自らを向上させることに意欲になる教育活動を編成すれば、おのずと体力は向上するであろう。	
12	国語科を中心とした各教科・領域において、育てたい力を明確にした上で、相手や目的を意識して説明する活動を設定し、活動の振り返りにおいて、活動の成果と自己の説明力を客観的に評価することを積み重ねていけば、自分の思いや考えを効果的に説明する力を持つ生徒が育つであろう。	研究担当を始めとして、教職員に研究に費やすことのできる時間が確保されていないし、エネルギーが他の校務・雑務に向けられているため、研究の深まりが得られない。もう少し教職員が教科指導・研究に専念できるような環境作りがなされないと、効率ばかり追求していても本当の意味での研究になり得ないと思う。
13	言語活動を基盤に据えた知識活動やコミュニケーション活動を取り入れることにより、思考力・判断力・表現力が育成され、自らの考えや思いを伝え合うことができる生徒に育つであろう。	
14	TT指導等の学習形態の工夫や生徒の進捗状況を踏まえた教材・教具の開発を通じ、生徒一人ひとりの躰の解消や学習意欲の向上を図り、自他の人権を尊重できる集団の中で、基礎的・基本的な知識・技能を習得する場と活用する場を設定すれば、学ぶことの楽しさを実感し、主体的に学習する生徒が育つであろう。	互見授業を含め、校内研で全員が提案授業を実施するように心がけて研修を深めている。
15	授業や活動の中で生徒同士が支え合ったり、教え合ったりする場の設定と内容を工夫することで、コミュニケーション能力を高めることができ、共に向上しようとする集団を育むことができるであろう。	
16	教育活動全体をとおして言語活動を重視し、個に応じた指導と見通しと振り返りを計画的に取り入れた学び合いの授業づくりを工夫すれば、確かな学力を身に付けた主体的に活動する生徒が育つであろう。	研究授業の時だけでなく、互見授業にも授業観察シートを利用し、お互いの授業力向上を図る必要がある。

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
17	全教科・全領域の授業において、下記のことを意識して授業の工夫と改善を図れば、生徒は学びの成果を活用し、主体的に課題解決することができるようになるであろう。○授業、学習規律を意識した学び(合い)の空間づくり○明確な思考を深める学習課題の提示○終末段階における授業のまとめの設定○思考を深める個人思考の場と集団思考の場の設定	主体的な校内研究となるためには、研究内容がそれぞれの日常実践の課題とつながることが重要。その工夫、手立てが大切。じっくり腰を据えた研究をするためには、心のゆとりが必要である。
18	指導者が「ねらい」と「手だて」を明確にして、自他を認め合う学習(交流)の場や思考力・表現力・判断力などを培う学習活動の工夫をすれば、支持的風土のある学習集団が育ち、学習者は、基礎・基本の知識・技能を身につけ自らの力で課題を解決することができるであろう。	本校は、指導案を「授業レシピ」という形で簡略化しており、校内研だけでなく、日頃から「レシピ」「考えるシート」を活用している。また、「レシピ」週間を設定し、互見授業に取り組んでいる。教師の授業力を向上させることが、学習者の学力向上につながると考える。
19	生徒理解を基盤にした望ましい学習集団づくり、家庭との連携を図るとともに、各教科の授業で一人ひとりに、できた、わかったという達成感や充実感を味わわせる経験を積み重ねることにより、基礎・基本が定着され、さらに学習しようとする意識が高まり、自律的に学び続ける生徒が育成できるであろう。	
20	生徒会・学級・学年の集団づくりの活動や授業の中で、一人ひとりが成功体験を得られるように支援していけば、自己イメージが高まり、生徒相互の信頼関係が深まるであろう。この過程の中で、豊かな人間性と生きる力が育てられるであろう。	一人一研究の実施(研究課題を踏まえ、今自分が一番課題と感じていることを個人研究テーマとして設定し、解決に向けた取組と成果を職員に公開、提案する)
21	子どもの興味関心をもとに追求意欲のわく課題を投げかけ、一人ひとりが自分の考えを持つ課題を取り入れる。(一人学び)考えを交流する中でお互いの違いに気づかせる工夫をすることで(交流学び)、より広く、深くものごとを考える力が身につく、豊かに表現できる生徒が育っていくであろう。	他県の効果的・効率的な校内研究の方法についての資料がほしい。
22	新教科を中心に授業の中のあらゆる機会にことばで表現させる機会を設け、あわせて、学習スキルを身につけさせる指導、学び合いの場を設定、実態をもとにした授業改善をおこなうことで、生徒の学習意欲が高まり、自己学習能力が育つであろう。	
23	各教科において基礎・基本を明確にし、指導法の改善を行うとともに、学習規律の定着を図れば意欲的な学習態度が養われ基礎学力が定着するであろう。	学校行事や他の研究などで時間の確保が難しい。全員がベクトルをそろえられるような研究にしていきたい。
24	生徒の実態をふまえた学習課題の設定により学習意欲を喚起し、「学習の手引き」「○○中学習心得」等を元に学習方法を明確化し、学習習慣を定着させ、学習内容の確実な定着を図っていけば、主体的に学ぶ意欲を持った生徒を育成することができ、基礎学力を向上させることができるであろう。	研究内容を絞り込み、共通理解を図った上で、全員がその方向で取り組み、検証していくことが大切であるが、学校現場では日常の課題解決に追われ、じっくりと研究に取り組む雰囲気なかなか生み出しにくい。
25	授業力向上の取り組みと学習環境の整備を、絶えず「実践」→「検証」→「修正」し、粘り強く継続し「徹底」していけば、確かな学力を身につける生徒が育つであろう。	時間の確保が難しいので、参加できる人だけで時間がきたら始めるようにしています。
26		様々な出張が入りすぎていて、教職員全員そろそろ日そのものが少ない。そういう中で充実した校内研究はとても難しい。
27	授業を支える「学び」の「環境」を整え、自己学習力を伸ばす授業を工夫改善し、「学び」の主体である生徒を支える体力の向上をめざした取り組みを実践していけば基礎学力が向上し、意欲的に学ぼうとする○○中学生が育つであろう。	時間の設定や確保が難しい現象ですが、本校の職員は、校内研の必要性は十分理解できていると思います。計画的・組織的な取り組みで、教職員全体の共通理解のもと研究を進めていくことが、効果的・効率的な校内研究につながると考えます。
28	教材や板書およびグループ活動を工夫し、発表などで自分の考えを表現する場を保障することにより、生徒一人一人を大切にす支援ができ、互いに認め合い学びあおうとする姿勢を身につけることができるであろう。	研究推進部会や教科部会や学年部会を活用し研究主題、仮説の達成に向けた共通の理解・実践が必要だと思います。
29	思考や判断を必要とする課題を用意し、一人ひとりに意見や考えをもたせ、他の生徒と交流する場を設定することで、将来にわたってよりよい社会を形成する一員として、主体的に考え行動する基礎的な力を育むことができるであろう。	研究内容が指導力あるいは授業力向上であれば、教員の参加意識が高くなるのではないが、指導言、評価言、板書などの授業技術についての研究も参加意識が高くなるのではないが、研究方法については、VTRの効果的利用やKJ法、ブレインストーミングなど、様々な手法を用いることで参加意識が高くなるように思われる。
30	互いの個性を認め高め合う集団作りをめざして、小グループを活用した学習活動を工夫し、適切な支援を行うことで、生徒は仲間と学ぶことの楽しさや喜びを味わい、集団の一員としての一人一人の意識を高め、学校生活において、意欲的・主体的に活動することができるであろう。	日常の学校生活の中で、成果と課題を地道に検証していく。
31	各教科がグループ学習などの学び合い活動を取り入れ、言語活動の充実を図れば、生徒一人ひとりの学ぶ意欲が高まり、確かな学力を向上させるであろう。	
32	授業において生徒の学習意欲を引き出す指導方法を工夫すれば、自ら学ぶ生徒が育成できるであろう。	研究と日常の教育活動の一体化。

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
33	話し合い活動を積極的に取り入れた授業を工夫することにより、話し合いの価値がわかれば、生徒は自分の考えや思いを持つとともに、周りの子と関わり合いながら、自信を持って自分の意見を発表できるようになるであろう。	若い先生方が発言しやすいような場の設定(グループ化、ペアなど)と、時間をかけずに回数を多くもつように声かけしている。
34		生徒の実態や学校が抱えている課題から生み出される研究であれば、効果も上がり、効率よく進めていこうと気持ちを合わせる事が可能になるのではと思う。
35	各教科等において、生徒一人一人のキャリア発達を促す視点に立って、それぞれの目標・内容を達成していけば、将来を見据え、自ら進む道を切りひらく生徒に育つであろう。	カリキュラム・マネジメント(PDCAサイクル)など、毎年の研究成果を積み上げていくことができるシステムの確立。
36	生徒が主体的に活動するために、生徒の考えを交流し、深めることができるよう言語活動の充実を図る授業展開を工夫することにより、「豊かな学び」が育つであろう。	県内の各学校の研究紀要を、県のセンターでデータベース化し、ネット上で閲覧できるようにしてもらえると、研究で参考にできる等、活用できるのではないかと思う。
37	「聞く」「書く」「読む」「話す」力を意識した授業づくりや、家庭での学習習慣の定着を図る取り組みを行うことで、基礎・基本の定着を図ることができるであろう。さらに授業において、「活用の場面」を設定する工夫をすることにより確かな学力が身に付くであろう。	研究組織がしっかりしていること。
38	各教科等の授業において、有効な課題を設定するとともに、課題の提示に至る授業の導入や課題を解決する過程で各教科等の特性や単元に適した工夫を取り入れることによって、生徒の学習意欲は喚起され、主体的に学ぼうとする態度を育てることができるであろう。	研究推進部のリーダーシップも大切だが、教員全体で問題意識を共有し、どのように研究を進めていくのかを全体で確かめることに年度当初十分に時間をとることが、時間がかかるように見えて、結局は効率的な進め方だと感じた。
39	小中の系統性(つながり)をふまえ、生徒が考えるために必要な手がかりを「教え」、自分の考えを伝えたり、相手から受け取った考えを理解したりする言語活動を工夫すれば、自分の思いや考えをきちんと持ち、伝え合うことのできる力をもった生徒が育つであろう。	過去の他校の研究紀要などの資料を閲覧できればと思う。
40	道徳の時間を要したすべての授業において、教材・教具・展開の仕方等を工夫し、生徒のよりよく生きたいという心を動かす指導を行えば、道徳的価値に裏打ちされた判断力により行動できる生徒が育つであろう。	部会研や学年研を取り入れ、多様な体制を取ることで効率化が図れると思う。
41	自己や集団の思考を深化させるために、各教科において言語活動の活性化を図り、本時のめあてに対するふり返りの場を設定すれば、生徒が主体的に授業に関わり、意欲的に学習する生徒が育つであろう。	
42	すべての教育活動において、お互いに思いを出し合い、受け止め、気持ちに共感し、お互いを認め合い、アクション(ことばをかける、一緒に行動する、挑戦する)を起こして行くことで、お互いを認め合い、支え合う集団に育つであろう。	研究テーマとアプローチの方法が明確であり、共通理解されると、学校全体で研究に取り組む流れができ、日常的に研究の積み上げ、発展が期待できる。
43	「わかる・楽しい」授業づくりに向けて授業改善に取り組むとともに、授業と連動させた家庭学習や補充授業の指導を継続的に行えば、生徒の学力の向上が図れるであろう。	
44	小中一貫教育を推進していく中で、小中学校の互見授業の実施や教育課程の研究、生活・学習規律の連携を図ることで生徒の実態を明らかにし、生徒の発達段階に応じた授業の工夫や指導法の改善や教材の開発を行えば「確かな学力の向上」につながるであろう。	
45	各教科の授業において「言語活動」の場を設定し、授業の工夫をするとともに学校生活における「言語環境」を整えていけば、より確かな学力の定着・向上へとつながるであろう。	計画的な取り組み、事前の資料や連絡プリントの配布、明確な視点、少人数での取組等。
46	①学びの力を伸ばし深めることで、生徒の生きる力が育つであろう。 ②思いを伝える力を育てることで、相互理解が深まり、望ましい生徒集団が育つであろう。	
47	教育活動全てに人とかかわりを持たせ、共に高め合う道徳の授業を積み重ねていけば、お互いに多様な価値観や感じ方にふれることとなり、認め合い、学び合い、高め合う生徒が育つであろう。	他校の研究資料の活用。
48	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、それらを活用して取り組む課題を設定し、考えを伝え合い、学び合う学習活動を仕組んでいけば、思考力・判断力・表現力等を育むことができるであろう。	

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
49	日常の学級学年の指導(道徳や特別活動を中心とした指導)や教科指導において、次のような手立てを講ずれば学力の向上につながる生徒の自尊感情や学習意欲を高めることができるであろう。《手立て1》道徳や特別活動において、言語活動を中心とした表現活動を身に付かせる場を設定することにより、より良い人間関係づくりを進めていく。《手立て2》教科指導において自分の意見や考えを場に応じたことばで伝えたり、相手の話や意見を聞きながら自分の考えを深める。	
50	すべての授業において小グループの効果的な活用や、生徒の思考や活動の多い、協同的な「学びあい」のある授業づくりに取り組み、学習意欲が向上し、主体的に学習に取り組む生徒が育つであろう。	本年度「研究授業」が「互見授業」の形で全員が1年間に1回は授業を公開する取組を実施中である。「たくさんの授業公開」→「できる限り参観」が研修の基本になるべきかなと考えている。
51	学習活動の中で言語活動の充実を図り、ともに学び合うことの楽しさやよさを経験させ、学びのつながりを確かにすることで、効力感が高まり、自ら学び考える生徒・生きる力につながる学力を身につけた生徒が育つであろう。	理論研究の必要性、資料の提供など。
52	確かな学力を保障する力としての「授業力」を高める工夫を行えば、学ぶ楽しさや達成感を味わい主体的に学ぶ生徒が育つであろう。	
53	夢の実現をめざす教育活動の場において、思いや考えを伝えあう中で互いに認め合い、よさに気づく振り返りの場を工夫すれば自尊感情が高まり、生きる力が育まれるであろう。	生徒の実情にあったものであること。研究主任のリーダーシップ。
54	一人一人に目が届く小規模校の特性を生かし、9年間を見通した子どもの学習に関する課題を詳しく把握するとともに、発達段階と系統性を重視した指導法の工夫・改善を行えばコミュニケーション能力が育つであろう。	管理職や研究主任(モデルリーダー)のリーダーシップのもと、研究の方向性をしっかりと示していく必要がある。研究主任と教務の連携により、計画的に研修の時間を確保していくことが大切。
55	自他を大切にすることを育てながら、生徒が授業の中で、筋道を立てて考えたり説明したりする言語活動を工夫することによって、多様な考えを引き出したり、伝えたり共有し合うことで、新たな知識・理解が得られ、学び合うよろこびを感じることができるであろう。	事前に必要と思うプリントや資料を準備する。 効率的に進めていくという考えは今のところなく、時間がかかったとしても、じっくりと研究していきたい。
56	生徒の学習に関する実態を調査・分析して問題点を明らかにするとともに学校(授業)や家庭(家庭学習の学習活動を見直し、授業から家庭学習、また、家庭学習から授業へのサイクルをうまく連動させた授業づくりをくふうすることにより学習意欲の喚起・向上へとつながり「三学一支持」の確かな育成が図れるであろう。	
57	各教科において、1時間完結型の授業にスタイルに沿った授業を展開する中で、「聞くこと」「話すこと」を中心とした班活動やグループ活動を取り入れたり、家庭学習の仕方について具体的な手立てや支援方法を工夫したりして、教え合い支え合う体制を作れば、学習への意欲や興味が増すとともに家庭学習も充実し、学力の向上につながるであろう。	少人数による学習や討議の場面を多用することで、人間関係が深まり、立場に関わらず発言しやすい雰囲気ができる。グループ編成は研修内容により、効率的な話し合いができるよう、その都度変えていくとよいと思う。
58	生徒一人ひとりが活躍でき、認め合えるような活動を具体的に設定し、支援・指導のあり方を工夫し、深化させることで、小集団が活性化するようにすれば、個の自己肯定感や他者理解も生まれ、互いを認め合い支え合う集団ができるであろう。	日々の教育実践の中で忙しさに追われ、時間の確保等が難しい実態がある。全職員の共通認識のもと、日々の積み重ねを大切にできる研究にしたいと考えている。
59	各教科等において、言語活動を取り入れたグループ学習の場面を位置づける授業の工夫・改善をすすめることにより、生徒が互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることにより、思考力・判断力・表現力等が育まれ、確かな学力を身につけるであろう。	短時間でも時間を確保し、少人数グループでの研修や事後研の持ち方の工夫をする。
60	小中学校の9年間で前期(4年)・中期(3年)・後期(2年)毎の系統だてた教育課程を実践し、子どもの実態や各期の発達段階に応じて各教科等の特長を生かした伝え合い学び合う言語活動を取り入れた授業を行えば、心豊かに共に生きる力を身につけた子どもが育つであろう。	子どもの実態や課題に基づいた主題を設定し、育てたい子ども像を明確化するとともに、そのための方法を共通理解し、全職員で取り組むことが必要。そのためには十分な研修の時間の確保が必要になる。
61	各学年で学種の意義を理解させ、落ち着いた学習集団を作り、教科研究や学年部会で基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫をするなど授業改善に取り組み、わかる授業を展開すれば主体的に学習に取り組む生徒が育つであろう。	大規模校の効率的な校内研究の進め方について、研究主任自らが学ぶ必要性を切実に感じている。
62	適切な学習課題を設定し、個人の目標を持たせたり、学習活動(形態)の工夫などで学習に取り組ませなければ、学習に自主的・主体的に取り組む生徒を育成できるのではないだろうか。	教職員全員を集めて行うには時間確保が難しい。学年ごとや教科ごとに参加できる時に開催する。互見授業を行い、参加できる人に見てもらい、アドバイスをもらう。系統的、論理的な研修は、夏季休業中あるいは校外の研修で行う。
63		研究主任を指導・支援する体制が必要。初めて研究主任になった時、何を、どこから、どうやっていけばいいのかが分からない段階で、約2〜3週間の間に、仮説や主題を考えて提案し、1年がスタートするという流れになり、かなり無理があるような気がする。
64	教科等の授業において、課題提示、互いを高め合う授業展開やまとめを1時間内にきちんと行うことや、確認テストなどで個々の到達状況を適切に把握することなどの指導方法の工夫・改善をしていけば、学習内容が定着し、いきいきと学ぶ生徒が育成できるであろう。	

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
65	各教科の授業の場において、①学習目標の提示、②「聞く・話す・書く」場面を導入した達成感、充実感を味わうことのできる授業の展開、③本時の活動を振り返るまとめ、この3点を軸にして一貫性のある学習指導を行えば、生徒の思考力が深まり学力が向上するであろう。	時間設定、授業研究等、研究主任を中心に管理職、教務主任との連携が重要と感じる。
66	授業において、言語活動を積極的に活用・工夫し、生徒相互のコミュニケーションの場を多く設定することができれば、自ら考えて行動し、社会の変化や困難な状況においても、他者とコミュニケーションを図りながら柔軟に対応できるたくましさを持った生徒になるであろう。	
67	各教科(領域)において、互いの考えやその良さをわかり合える場を学習過程に設定し、進んで表現するための手立てを工夫すれば、自尊感情を持ち、自分の思いを伝えることができる生徒が育つであろう。	グループに分けて授業研究に取り組んだり、各個人にテーマをもたせる等工夫し、全体が集まらない分を補う。
68	授業過程の中に、仲間とのかかわりを持たせ、自分の思いや考えを出し合い、互いに認め合ったり高め合ったりする場を持たせ、一人ひとりが自信を持って学習し、自ら進んで学ぶことができるであろう。	
69	各領域、場面、教科で、集団による学び合いの場面を設定すれば、生徒一人ひとりが自ら学ぶようになるであろう。	
70	授業を支える学習環境を整え、授業においては基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための授業方法の工夫・改善を行うとともに、習得した知識・技能を活用する場を設定すれば基礎的・基本的な知識が定着し、確かな学力を身につけることができるであろう。	
71		机上の論理だけでは実にならないので、先ず課題を明確にすること。課題は具体的に提示し、変容の可能性があるもの。
72	道徳において、「配慮とかかわり」を中心にして資料や課題に向き合わせ、お互いの考えや思いを伝え合う交流の場を工夫すれば、人権に対する感性を高め相手の立場に立って深く考える生徒が育つであろう。 学級活動において、人間関係を深める体験的な授業を多く取り入れ、日常的にそれができているかどうかのふり返りをすれば、相手の立場に立って深く考え行動できる生徒が育つであろう。 学級経営案に基づき、学級の関係づくりを工夫し、短学活(帰りの会)における1日の振り返りや学年集会を通して、お互いの考えや思いを交流すれば、日常的に人権意識を高め相手の立場に立って考え行動できる生徒が育つであろう。	
73	各教科の学習において、①言語活動を通して生徒につけたい力を明確にし、②適切な課題設定を行い、③具体的な言語活動の手立てを講じれば、他との関わり合いの中で一人ひとりの思考力・判断力・表現力が培われ、自分の考えを持ち、積極的に他との学習交流を深めるであろう。	
74	国語科で培った言語力の基礎(漢字力・語彙力等)を使って、各教科の授業で記録・要約・説明・論述等の多様な言語活動の場を展開していけば、豊かなコミュニケーション能力が養われ、確かな学力を持つ生徒が育つであろう。	
75	言語活動の場において、考えの理由やその足場となる根拠を引き出す手立てを明確にし、効果的に伝える表現技法を身につけさせれば、自信を持って自分の考えを相手に伝えることができる児童・生徒が育つであろう。	教員全員が足並みをそろえて取り組むことだと思う。
76	授業や学校行事等あらゆる場面において、「書く」ことを中心にした言語活動を取り入れ、「国語力」を育成する場を意図的に設定していけば、ことばを通してものごとを思慮深く考える論理的思考力や表現力が育ち、意欲的・主体的に学習に取り組む生徒が育つであろう。	授業研究をしていく中で、研究を進めていく。
77	各教科・総合的な時間・生活科において、児童生徒につけたい「学びの力」を分析し、小規模小中併設校の特色を生かした指導・支援を工夫していけば、児童生徒に思考力や表現力などの基礎基本の力を培うことができるであろう。	授業の中の児童生徒の様子と教師の指導・支援の在り方を、授業事実に沿って分析し、日々の実践に互いに活かしていこうとする姿勢。
78	生徒の自己評価を中心とした学習評価の工夫を通して、授業のねらいに即した確実な評価を実施し、評価に応じた学習活動や家庭学習と結びつけて計画的にフィードバックさせれば、主体的な学習習慣が身につくであろう。	全体会を何度ももつよりも、一定の方向性を示した後は、小グループに分けて協議・検討した方が、各自の意見がよく出て責任感も増して、他人任せにせず、自分の課題として、校内研究に取り組むようになると思う。
79	学校生活全般にわたって見直した言語環境や言語活動の充実や、評価・授業改善を通して授業のねらいに即した評価を実施し、評価に応じた学習活動や家庭学習と結びつけて計画的にフィードバックさせれば、主体的な学習習慣が身につくであろう。	推進委員を組織する。部会をつくり、リーダーを中心に小グループの取組をするのも効果がある。

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
80	学習のねらいを明確にし、基礎学力の定着を図るために、授業の工夫・改善と家庭学習の充実を進めていけば、学習習慣が確立するとともに、生徒が学習に対して目的意識を持ち、学習者としての自立ができるようになるであろう。	全教職員が立場や教科に関係なく関わっていける研究内容を、十分な時間を確保して検討・実践していきたいが、その時間が十分取れていない。また、研究組織を見直していき、十分練られた提案をしていけるとよいと感じる。
81	各教科において教科の特性や内容に応じて自分の考えをまとめたり、説明したりするなどの各活動を効果的に設定し、場に応じた評価と指導を継続していけば、生徒の学びの意欲が高まるとともに、思考力、判断力、表現力が向上するであろう。	
82	授業の中で学び合いの活動を取り入れることで、学ぶ楽しさを味わうことができれば、学習に積極的に取り組み、向上心を育成することができるだろう。	
83	「思考する場面」「表現する場面」を多くし、「個→グループ→全体」の場で「話し合い活動」を活発にすれば、意欲を持って学び合い、自尊感情や他者理解等が深まり、自他ともに大切にできる生徒が育つであろう。	校務内容のスリム化、効率化を図り研修時間を確保すること、指導主事の活用や研究先進校、〇〇研教科部会との連携を図る。
84	教科や総合的な学習の時間を中心に全教育活動の指導において、書く力を構成する基礎的、基本的な内容や技能を整理し、生徒一人一人の実態に応じた指導、支援の在り方を工夫していけば知識及び技能を活用でき、自ら考え判断し表現できる生徒を育成できるであろう。	
85	4つの小部会毎に設定している 教科部会(系統的な教育課程の共通理解、実践や指導方法の見直しをすれば、いきいきと学習に取り組む子どもが育つであろう。) 総合学習部会(総合的な学習の時間での、人権、公書、平和、食育、キャリア教育等の教育課程の見直しや実践の交流によって、児童生徒の生きる力を育むことができるであろう。) 生活指導部(児童生徒の生活・学習面等の実態や、保護者の子どもの関わり方、悩みなどを踏まえ、その改善策を探っていけば、三者(子ども・保護者・教職員)の連携・実践の手立てや支援の方法が明らかになり、児童生徒の生活をより豊かなものにする事ができるであろう。) 特別活動部会(児童・生徒の発達段階を踏まえた効果的な合同活動を仕組むことにより、異学年での共同、協同の場が多くなり、様々な場における表現が育成されるであろう。)	
86	各教科の授業において、「力をつける」授業スタイルを明確にし、組織的に実践をすれば、生徒自らが「力がついた」と実感できるようになるであろう。	
87	各教科、領域において、小中9年間の言語に関する能力の系統性や児童生徒の発達段階をもとに身につけさせたい力を明確にし、事象や文章・資料から筋道を立てて考え、考えたことを表現する言語活動やお互いの思いや考えを伝えあう言語活動を充実させれば、思考力・判断力・表現力を育むことができるであろう。	
88	各教科・道徳・学活等の指導において目標を明確にしたグループ活動を導入し、「聴き合い・つなげ・表現する」言語活動を行わせれば、集団による問題状況の把握とともに集団の思考(解決の過程で集団内の多様な価値意識や情報による分析・吟味)に出会い、学校におけるすべての学びが個別的であると同時に社会的なものとなり、学びの共同体が育成できるであろう。	
89	小・中の教職員が同一方向で取り組める体制を推進し、小・中学校と地域が連携して、児童生徒の実態に応じた学習面や生活面の指導を工夫すれば、円滑な接続を図ることができ、確かな学力を身につけ、心豊かで意欲的に小・中学校生活を送る子どもが育つであろう。	研究の方向性について、年度当初に全教職員で十分に論議することが大切であると思う。
90	学校の教育活動や家庭生活において、健康でたくましく生きるための運動習慣の確立や生活習慣・食習慣を形成することにより、学びを支える体力や気力が向上し、何事にも意欲的に取り組み、豊かな人間性や確かな学力を身につけた子どもが育つであろう。	
91	研究主題： わかる・できる・楽しい授業の創造 仮説は、各教科ごとにたてています。	
92	各教科の授業において、単位授業や単元毎のねらいを明確に示した「見通し」をもたせ、そのまとめを行う「振り返り」活動を計画的に展開させれば、生徒にとって授業がわかりやすくなり、意欲的に学習に取り組むようになるであろう。	
93	集団づくりや自分の将来について考える取り組みの中で自他の理解やコミュニケーション能力の育成を図る場面を設定することで自己存在感が高まり、自分の将来を豊かに描くことができる生徒が育つであろう。	

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
94	「教え合い」を可能にする学習集団作りができれば、共に学ぼうとする力が高まり、主体的に学ぼうとする子どもが育つであろう。	
95	授業において、指導法の工夫・改善等を重ねながら、学び合い、認め合う場を設定することで、生徒は達成感・成就感を味わい、「生きる力」につながる学力がつくであろう。	事前に意見を集約して、協議の際にそれを活用することで、協議が効率よく進み、また、研修を深める効果があるのではないかと思う。 〇〇市が推進している「協調学習」の形態を研修にも応用すると、研修がさらに深まり、効果的な研修ができると思う。
96	生徒の実態を把握した上で、 ①生徒の心に響く人権の授業の実践 ②生徒の自尊感情を高めることを意図した、伝え合う場面を設定した学習指導の工夫 に取り組みば、お互いに認め合い高め合うとする姿勢が高まり、集団が高まっていくであろう。	子どもの実態に根ざしたテーマの設定が大切。本校では設定にあたって論議し、時間をかけた。 日頃から教師が問題意識をもっていないと、子どもを鍛える実践につながらないと思っている。
97	各教科や特別活動等で「伝え合う力」「かかわる力」を高めるための伝え合う場を設定し、思考を深め、生徒同士や地域とのかかわりを通して、達成感を味わわせる体験活動を工夫していけば、自ら学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成を図ることができるであろう。	全教職員が共通理解を図り、めざす生徒の育成に向け挑戦していくことが大切だと考える。
98	すべての教育活動において、課題を明らかにして、何をどうすればよいのかという見通しを持たせ、その時々で振り返りを行うことによって、生徒が目標を持って主体的・意欲的に学習に取り組むようになるであろう。	もっと時間が確保できれば、仮説の検証等も十分できるのではないかとと思うが、授業検証を行うことで、精一杯なのが現状である。
99	全教科において、図書館等を利用し、言語活動を工夫した授業を創造していけば、生徒一人一人が主体的・意欲的に学習活動に臨み、基礎・基本を育てることができよう。	校内研修が、全職員で取り組めるもの、取り組んだことが確実に日々の授業に生かされて、先生達も生徒達も一緒に成長できるようなものになればと考えている。
100	1時間の授業の中で①生徒が意欲的に取り組む授業の工夫・改善を行う。②生徒が課題について自ら考え、工夫して発表できる場を保障する。③その生徒の実態にあった適切な助言や評価を行う。以上を実践していけば、自ら学び、生きる力に満ちた生徒が育つであろう。	校内研究は生徒の実態から出た課題をもとに進めなくては最大の効果は得られない。
101	体験活動や道徳授業の中で、「自己存在感を感じる場」「自分の考えを持ち、自己決定を行う場」「共感的人間関係を築く場」を設定し、体験活動に内在する道徳的価値を道徳授業で深めるといつなぎを大切に学習を展開していけば、思いやりの心を持ち、自ら考え、よりよく生きようとする生徒を育成することができるであろう。	効果的・効率的な校内研究を推進するためには、研究推進委員会を十分機能させる。
102	生徒の実態を把握(各種調査)し、お互いに高めあえる仲間づくりの場の設定(授業・各種行事・家庭・地域との連携)、学習指導法の工夫を通して、学びを実感できる場を設定すれば、生徒は学びの喜びを感じ、学びに向かおうとする意欲を持ち、自ら学び、考え行動する力を育成できるであろう。	研究推進委員会(校長、教頭、各学年代表、研究主任)を研究組織に位置づけ、研究の方向、年間計画等の提案を全体に行い、研究をスムーズに始められるようにする。授業研究部会等の部会を組織し、研究に対するいろいろな提案をすることで校内研究の共通理解・充実を図り、研究を進める。
103	学びに向かう集団づくりを進めるとともに、各教科の授業等で小グループによる互いに学び合う授業の展開と活動的で協同的で表現的な学びを工夫し、わかる楽しい授業を行えば、生徒の学習力を高め基礎・基本の定着と思考力を向上させることができるであろう。	職員の異動に左右されない研究体制を確立するため、共通して取り組めるものについては全市で取り組むことが望ましい。文科省の「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」やOECD教育研究革新センターの「脳から見た学習ー新しい学習科学の誕生」は、校内研究を進める上でのよりどころになると期待できる。
104	教育活動全般における多様な集団活動の中で、自尊感情を高める自己表現の場面や、共感的な態度を引き出す認め合いの場面を設定していけば、自他の存在をかけがえのないものと実感し、お互いの考えや思いを大切にしながらともに学び深め合う子どもが育つてゆくであろう。	毎年のように指定を受け、同じことをしていても、そのたびに指定の研究に合うよう違ったアプローチをしなければならぬ。指定研究を減らし、じっくり取り組める研究体制を作る必要があると感じる。
105	学年の発達段階や生徒の実態に応じて、自分の気持ちや考えを大切にしながら表現する場を設定し、それを受け止め認め合う関係づくりをすれば、自己肯定感が生まれるであろう。また、このような活動を積み上げていけば、活動主体としての自覚ができ、自主的・主体的に行動できる生徒が育つであろう。	今接している子どもの実態やめざす生徒像をもとに研究を進めると、議論が活発になり、効果的で充実感がもてる研修になる。効率的に研修を進めるには、協議の柱や目的を明確にし、話題がぶれないようにすること、全員が発言できる状況をつくるのが大切であると思う。
106	学校生活や家庭生活において、健康でたくましく生きるための生活習慣・食習慣を身につけさせる工夫や、学力を向上させる取り組み、生徒どうしが密に関わり合う取り組みを継続的に仕組めば、豊かな心と体が養われ、学力向上に主体的に取り組む姿勢を身につけた子どもが育つであろう。	
107	様々な学習場で「活動」「小グループによる協同」「表現の共有」という、問題解決の活動を組み込み、学びの質を高めていけば、生徒の学習意欲が喚起・継続され、自己を表現する(活用する)力が育つであろう。	中学校における研究は、校長のリーダーシップによって大きく左右されると思う。
108	各教科・道徳において、学んだ基礎基本の知識・技能をもとに、言語活動によって思考・判断・表現する学習過程をしゅみ、指導を工夫・改善していけば、生徒が意欲的に学び、表現する力を育てることができるであろう。	時間の確保 研究の内容を具体的に焦点化する。 日常の授業実践と結びつけた内容とし、実践しやすいようにする。
109	1時間完結型の授業を展開する中で、生徒が思考し判断し表現するとともに、お互いに学びあう学習活動を工夫することにより、基礎的・基本的な内容の定着と活用する力の向上を図ることができる。	

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
110	授業に活用場面を位置づけ、自らの考えをわかりやすく伝える工夫をさせれば、生徒は意見を出しあったり、練りあったりする表現の場を通して、基礎的・基本的な知識や技能をより確実に習得し、確かな学力を身につけることができるであろう。	他の先生方と連携しながら、全員で半歩でも一歩でも前進することが大事だと思う。
111	1授業の中で「めあて」と「まとめ」のある見通しが持てる授業を展開し、互いの考えや発言を認め合う「支え合いの素地」をつくるための協同学習の在り方を工夫すれば、自ら意欲をもって学習に取り組み、支え合い・高め合いができる生徒の育成につながるであろう。	
112	子どもたちの学習や生活の場において、児童生徒の実態に適した指導方法と各教科の全体構想を探り、9年間を見通した小中の良さを生かした体系的な指導を行っていけば、子どもたちは生き生きと学び、豊かに関わり合うことのできる態度が身につくであろう。	
113	各教科の授業において、1時間完結型の授業展開で本時のめあてを明確にし、基礎・基本の定着を図る指導を工夫すれば確かな学力が身につくであろう。	市全体、小中学校で統一の研究テーマを決め、よりよい実践方法、成果、課題、改善策について、主任会で意見交流ができれば効果的ではないかと考える。
114	各教科等において、学んだ基礎基本の知識や技能をもとに、それを活用するためにさまざまな言語活動と体験活動を取り入れて指導を工夫・改善していけば、豊かな心が育ち、生徒が主体的に学び、活用する力を育てることができるであろう。	
115	各教科において、習得させたい「基礎的・基本的」内容や目標を明確にして授業展開で特に定着の場の工夫をし、授業評価の活用を継続していけば、学習が定着し、学習意欲が高まり、自ら考え学び考える力を身につけた生徒が育つであろう。	
116	授業の終末段階において、生徒が学習したことを振り返る言語活動を充実させた学習過程を取り入れることで、思考力・判断力・表現力が高まり、確かな学力を獲得することができるであろう。	
117	「学力の基礎」の回復を目指す学習の徹底と授業における「活動の場」の設定を工夫することによって、「基礎・基本」の確実な定着とともに自己肯定感を醸成し、他者との共感・コミュニケーションに関する力が育成され、自ら学ぶ力を身につけ、学ぶことの楽しさを体感し、他者を尊重し、仲間とともに、たくましく生きる生徒が育つであろう。	互見授業、授業研究会の実施 人権に関わる校外研修、視聴覚教材の利用
118	課題解決に向けて、互いに高め合う活動を工夫し、自分の考えを発表したり、比較したりして学び合うことによって、思考力や判断力、表現力を身につけ、自ら意欲的に学ぼうとする生徒を育成することができるであろう。	
119	〇〇〇中学校の伝統文化である「〇〇〇大自然太鼓」を中心に据え、小規模校の特性を生かした様々な活動に取り組むとともに、「個に応じた学習指導」を創造することで、ふるさと〇〇〇を誇り、豊かな「学力」と、自分に自信を持つ生徒を育てることができるであろう。	
120	課題解決学習の過程をたどり、学び方を習得することにより、主体的に意欲を持って学習にのぞむ子が育つだろう。	研究を職員全員のものにするために、本校では職員を3グループに分けている。グループごとに研究主題に関わるグループ課題を設定し、協議している。学期中は時間確保がなかなかできず、夏休み中の研修を何度かもつようにしている。
121	様々な活動の中で、自分で考えて行動する場面や、コミュニケーション活動において自分の考えや気持ちを伝える場面を、繰り返し考え体験していけば、相手の気持ちや立場を尊重し、自己肯定感や表現力も高まっていくであろう。	研究授業においては、各教科の壁があって共通性に難しい面があるが、研究主題、研究仮説、授業における評価の視点などをできるだけ統一して取り組むよう心がけている。
122	各教科・領域において、基礎基本的な学習事項定着の徹底を図るとともに、どの生徒にも活動する場面や機会（自己決定の場）を与え、その活動を認め合い、支え合える学習集団を育成すれば、意欲的に学び合い、自らの生き方を拓く力（学力）の向上につながるであろう。	管理職と研究主任が話し合い、事前の準備をしっかりとっておくことが、まず必要。研究協議を進める時は、研究主任がリードしていくとうまくいくように感じる。
123	学校生活における授業・行事・集会などの場に、さまざまな言語活動（話す活動・書く活動）を工夫して取り入れることで、生徒により思考力・判断力・表現力などの確かな学力がついていくであろう。	
124	教科等において、興味関心を喚起し、思考力・表現力が高まる場を設定すれば、自ら学び、自らの力で解決していこうとする姿勢が育つであろう。	研究主題と教科との関連がうまくはかれると効果的である。
125	学級づくりを基盤とし、それを生かした授業づくりをすることで、生徒がお互いに教え合い、学び合い、高め合う活動を仕組むことができる。その結果、自ら学ぶ意欲を高め、生き生きと学習に取り組む生徒を育成することができるであろう。	組織作りをきちんとする。担当1人であたふたせず、複数で牽引していく体制をつくる。

中学校

	(6) 研究仮説を記述してください。	(13) 効果的・効率的な校内研究の在り方について、ご意見等をご記入ください。
126		教員が日々の業務や生徒指導に追われていて、時間的、精神的な余裕が持てない。
127	生徒が自らの考えや思いを持ち、他と交流する学習活動を通して「思考」したり「表現」したりする場を保障することによって、知識や理解の定着や思考が深まり、確かな学力を身につけさせることができるであろう。	
128	授業において生徒一人ひとりの意欲を高める「評価言」を用いて班協議を仕組み、学習規律が確立し、集団の質が高まり、落ち着いた学習に取り組むであろう。	教員が悩んでいる課題解決に直接つながる研究にしていくことが効果的・効率的な校内研究の在り方と思う。

※ (6)、(13)ともに記入のない中学校数 5校

大分県教育センター研修カリキュラム開発会議
組織(平成23年度)

	氏名	所属・職名
研究代表者	三浦 徹夫	大分県教育センター 所長
研究総括責任者	後藤 修一	大分県教育センター 副所長 兼 教育企画部長 兼 教育相談部長
委員 (共同研究者)	榊原 禎宏	京都教育大学 教育学部 教授
委員	福田 秀樹	大分県教育センター 教科研修部長 兼 指導主事
	土谷 陽史	大分県教育センター 教育企画部 指導主事
	佐藤 博義	大分県教育センター 教育企画部 指導主事
	佐藤 弘幸	大分県教育センター 教科研修部 指導主事
	甲斐しのぶ	大分県教育センター 教科研修部 指導主事
	吉野 昭子	大分県教育センター 教育相談部 指導主事

校内研究等の実施状況に関する調査報告
— 一層やりがいのある校内研究のために —

平成24年3月13日 発行

編集 大分県教育センター研修カリキュラム開発会議

発行 大分県教育センター

〒870-1124 大分市大字旦野原 847 の 2

Tel 097-569-0118

ホームページ <http://kyouiku.oita-ed.jp/edu-c/>